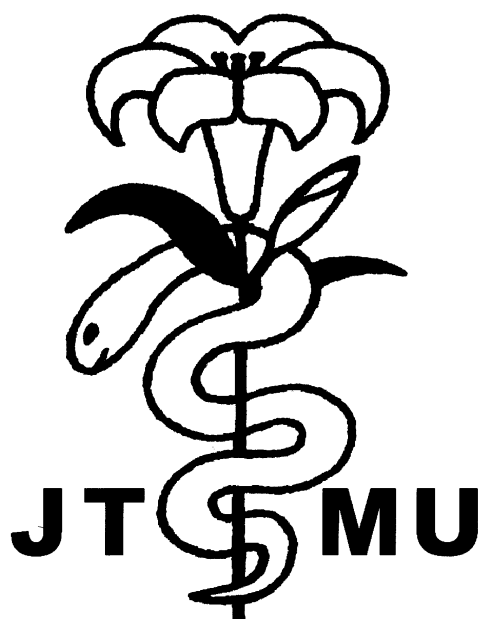


さと医 も便り

第11号 2007年6月

日本台湾医師連合 広報部

<http://www.jtmu.org/>



目 次

1. 会長就任に当たって・・・・・・・・・・・・・・・・	・ 王 紹 英	2
2. 退任に当たって・・・・・・・・・・・・・・・・	・ 丘 哲治	4
1. 台湾の世界保健機構（WHO）加盟について		
—日本の持つべき視点—・・・・・・・・	・ 王 紹 英	5
2. 国際的防疫へ 台湾のWHO参加を実現せよ・・・・	・ 丘 哲治	7
3. 浅論中華思想・・・・・・・・・・・・・・・・	・ 東 昌明	9
4. 生きて行く台湾—一人々の暮らしの観点から	吳 念真	
(講演)		
	(日本統治時代～現代)	(日文版)・・・・・・ 16
	(中文版)・・・・・・・・	28
7. 台湾廻響・・・・・・・・・・・・・・・・	・ 岡山 文章	37

8.	白子戦争 台湾前途的 七條岐路	田川博
章	41	
9.	危機一髪	高村
豪	44	
10.	日本は何故一党非独裁政治	田川
博章	45	
11.	柯旗化先生を偲ぶ	
	「台湾監獄島」－ 柯旗化先生の回顧録について	丘
哲治	47	
12.	祖国の彷徨 一詩人から見た台湾の主体性	王
紹英	49	
13.	2007年5月台医連理事会	議事
録	52	
14.	会 員 日	
誌	53	
編	後	語
55		

会長就任ご挨拶

王 紹英

早くも日本台湾医師連合は六年目に突入することになりました。三人の前会長、重光茂栄先生、岡山文章先生、丘哲治先生の奮闘と会員のサポートのお陰でわが会は、ある程度日本社会

に認知されたのではないかと思います。私もこれから日本台湾医師連合が掲げている最大の目標である「台湾の国際地位の向上」および「台湾のWHO加入」に向かって先生方と一緒に努力したいと思っています。校友会の垣根を越えた台湾医師連合の名のとおり、会員の親睦交流もわが会の重点のひとつであることは言うまでもありません。

我々が流した汗は、故郷の台湾のためにとどまらず、私たちの子供がこれから日本社会に生きてゆく精神的な背骨になれると思われます。台湾人の後代ということが彼らにうしろめたさを感じさせたくないのみならず、むしろ日本に堂々と生きていく精神的な糧になってほしいと思つてやまないのです。

日本の風向きは必ずしも台湾にとって順風といえないが、これから台湾に強烈な逆風が吹くようなこともそう多くはないのではないかと思います。これから、台湾への風向きがもっとよくなるよう皆様と努力して行きたいと思っています。台湾ファンがもっと増え、日本がもっと台湾の味方になれるよう、我々も日本社会の台湾理解がさらに深められるよう「博感情」の行事を行つて行きたいと考えています。日本国民の支持は台湾にとって無視できないものがあります。

日本台湾医師連合結成の原点である「台湾のWHO加入」についても、従来とおりの医師の論理と人道的な観点ならびに台湾国際位置の向上の立場に基づいて力を入れていきたいと考えています。台湾政府は、すでに従来のWHAオブザーバーの加入からWHO加盟に方向転換しました。日本台湾医師連合が当初から主張した「台湾はWHAオブザーバー加入の側門をやめて、WHO加盟の正面玄関に進むべき」のことは間違っていなかった。我々は、台湾政府の方向転換に賛成と鼓舞の意を送つてあげたいと思っています。これから以前に増して、より多くの難題に直面すると予測されていますが、めげずに台湾当局と連携してWHO加盟工作を進めていきたいと思っています。

台湾が国際的な孤立および国際地位の低下を招いたのは、今まで「中華民国」という台湾にまったくそぐわない北京劇のような仮面を被っているせいとしか言いようがありません。しかし、徐々に台湾人がこの仮面の害の甚大さに目覚め、これを剥がし、真の姿になろうと頑張っています。現在盛んに展開されている台湾正名・国家正常化にも呼応し、共鳴すべきではないかと考えています。しかし、この正常化の動きに逆行した台湾の中国化の傾向もわが故郷に根強く存在しているのも嘆きたくなることです。

日本台湾医師連合の会の性質として、二刀流といつてもいいし、二頭流といつてもいいですが、台湾と日本の両面を持っています。我々が決して我々が持っている日本の一面を疎かにしてはいけないと思っています。

台湾の水を飲んで台湾の米を食べて台湾に一生送つても、台湾に何の感情を持たない多くの中国人に我々が憤慨したことを思い出せば、私たちが日本にいても日本に感情を持たず、この国の将来に無関心になってはいけないではないかと思ひます。台湾にいる中国人の嫌悪された振る舞いの日本版になってはならないと思ひます。

台湾が中国化にされることも、中国に併合されることも、日本にとっても決して幸せになりません。台湾がもし中国に呑み込まれたら、台湾の陸海空の大軍勢と世界十七位の経済力が、そのまま中国の反日政策の馬前卒に転用されることは想像するまでもありません。台湾の暗黒時代の再来であるし、日本の不幸の始まりでもあります。台湾と日本の対決は、我々にとっても、子供にとっても、辛いことになるのは違いありません。どの立場から、台湾は現在の「中華民国」あるいは「中華民国・台湾」から脱皮して「台湾」として世界に登場し、日本といい国交を結ぶことが一番いい選択ではないと考えざるを得ません。

会の目標も行事も政治活動と誤解されがちが、それは白色恐怖教育の後遺症であると感嘆せざるを得ません。我々は、政治的な報われを得ることはないし、望んでもいません。持ち出しこそあっても何の利益の見込みもありません。我々は、子供が台湾人の血に自信を持つてほしいと願いながら、台湾が立派になる期待と自分の故郷を愛する気持ちを具体的な行動に移すのみであります。もし、それでも、故郷愛は政治動機であるように指弾されなければ、我々はもう彼らの真意を批判せずに嘆くしかありません。

末筆に私が好きなローマ人の言葉を結語とさせていただきます。

荒野にオリーブの木を植える

我々はその果実を味わうことはないかも知らない
その木陰で涼をとることもないかも知らない
だが、我々は木の成長を楽しむことは確実にできる

任期を終えるに当たり

丘 哲治

2年は長いかわい、人が置かれた環境によって随分違うと思います。しかし、2年は人間の一生にとって決して短い期間とは思いません。日本台湾医師連合を預かった2年の会長任期中に、さまざまな機会を通じて、多くの方と出会ったり、沢山のことを学んだりしました。苦悩する時や悩む時に、仲間や会員からのご提言とご指導をいただき、また楽しい時にはみんなと

一緒に喜びを分かち合って、本当に関係者の皆様に感謝する気持ちがいっぱいの2年間でした。この紙面をお借りして衷心よりお礼を申し上げます。

会の運営に当たり、何かをもうちょっと実行しても良さそうかと思っても、なかなか良いアイデアが湧いて来なくて、アツという間に2年が過ぎ去って、自分の能力の無さを痛感しつつ、余計責任を感じております。わたしの不勉強で台医連にいくつの懸案が次の執行部に取り残されてしまいまして、新執行部に対して本当に申し訳なく思っています。幸いにも、新しい会長王紹英先生はずば抜けた叡智と決断力の持ち主に、迫力のあるリーダーシップを持ち、きつと台医連が抱える諸問題を一気に解決して下さるとわたしが確信しています。

しかしながら、現在の会を取り巻く環境は相変わらず厳しいものがあります。特に求心力が低下したことは、私の一番の心配なものであります。このままで行きますと会が萎縮することに成りかねませんと懸念されます。会員が会への求心力を少しずつ失うことが否定できない事実である以上、その原因を探求せねばなりません。いくつかの要素が浮かび上がって来ました。たとえば、執行部と会員との間に意思の疎通が問題あるとか、執行部が用意したプログラムは会員の希望に沿えないとか、台湾政局の混乱が会員に失望感を与え、次第に会員が本会の目指した目標に失望し、意欲を失うことなど等が挙げられます。これはともかく、他にもいろいろ原因があると思いますが、新執行部はこれらを真剣に検討しなければ、会員の求心力向上はありません。

次に会の活動力が低下したことも一言申し上げたいと思います。全国各地に点在していた一部の会員先生が、遠路で会が主催した各イベントに参加することが事実上不可能となり、これについて、いつも心が申し訳なく感じています。一年に何回しか会から“さと医も便り”を受け取り、活動に参加することもできないのに、その上年会費を納めたり、寄付までをしたりする先生方には、衷心より敬意を表します。その一方、会員の年齢が増えるに連れ、活動力が低下したことは否めません。会員が会の主催するイベントへの参加する意欲を高めるために、今までの執行部が相当苦慮して来ました。恐らく、新しい執行部も同じ問題に直面することになると思います。この点に関しては執行部に限らず、会員の先生方も知恵を出し合って、この難問を乗り越えなければなりません。会員の先生方は、会へのご要望・ご期待・ご叱責があれば、遠慮することなく、執行部までにどんどん声を上げ、ご意見を寄せ、最終的には会の活性化に繋がります。わたしは、執行部と会員の間の関係プレーを強く希望して、全会員へお願いしたいです。

末筆になりましたが、就任して以来、一貫してご指導・ご支援して下さった会員を始め、各界の方にお礼と台医連の更なる発展を祈念申し上げ、任期を終えるに当たってのご挨拶と致します。

台湾の世界保健機構（WHO）加盟について 王 紹英

—日本の持つべき視点—

陳水扁総統が台湾のWHOのオブザーバー資格加入からWHO加盟に方向転換した。台湾のWHO

オブザーバー資格加入でも WHO 加盟でも、人道的な立場から訴えながらも、政治的・外交的な作戦の一環であると考えられます。中国はそれを感じたのか、総力上げて台湾の加入を阻止してきました。台湾は、1996年から低姿勢でオブザーバー加入を申請してきました。アメリカ、EU、日本の支持があっても、ことごとく門前払いされました。すべて、中国のお陰でした。

台湾の言い分は、まず、WHOの目的である人類の健康を守る見地から2300万の台湾人が排除されているのは、人道的に許しがたいことである、台湾の医療の力は世界に貢献できる、貢献する意欲も十分あるということでした。台湾の加入は、台湾と世界両方の利益になると主張してきました。台湾の言い分は、非の打ちようも無いと思われれます。したがって、アメリカも、EUも、日本も当然ながら、台湾のオブザーバー参加を支持すると表明しました。

ところが、台湾がWHO加盟に方向転換した途端、アメリカも、EUも、日本も相次いで支持を取り消しました。勝手に動いて、こっちの言う事を聞かないやつには、痛い目を合わせるというスタンスとしか見えません。台湾の加盟を支持することは、中国の逆鱗に触って、中国大人の怒りは収まらないことは、火を見るよりも明るいと思ったのでしょうか。支持しない理由は、言うまでもなく、台湾の国際組織入りが中国の不快を買うことは、明白なので、誰も支持の手を上げなくなりました。孤立している台湾は、ますます寂しくなりました。

日本は、台湾の言い分を聞いて台湾のWHO加盟とか、WHOオブザーバー加入を支持することは、まったく必要ありません。

人道のためとか、台湾人の生命のためとか、歴史的な絆とか、親日感情とか、人類の正義のためとか、こんな現代日本人とはあまり関係ないことで、一々中国の怒りを買うまでして台湾加盟を支持することなどしてほしくありません。

日本は、異国人が死んでも新聞価値などあまりないし、自国民の健康を考えれば十分です。

人間が短時間で長距離移動できる今の地球では、もはや一国の努力で完全に防疫体制を張ることはできません。したがって、世界すべての国がスクランブルを組まなければ大流行する疫病は制圧できないのです。WHOの真価はここにありますが、しかし、中国の横車的な一言でWHOの真価が露のごとく消え去ってゆくことは、たびたびあります。

日本の隣に疫病の大発生源の中国がいます。SARS、鳥インフルエンザは、まだ記憶に新しいと思われれます。すべてが中国原発生でした。SARS感染疑いの台湾医師の来日で、日本がパニックに落ち、台湾に対して非難の渦巻きが起こりました。そうしたら、台湾人として恥を覚えますかの取材は来るし、台湾の医療レベルは低くてWHOに入る資格はないみたいなトンチンカン評論も出ますし、台湾に対する風当たりは相当なものでした。

後輩の彼の行動に恥ずかしさを覚えながらも、片や、日本は問題点を正視せずに、弱いものいじめの悪い癖がまた出たと感じました。

台湾は、孤軍奮闘し、自国民の防疫に血が出るほど努力してきました。しかし、所詮一国の力

の限界もあり、つい、中国からの疫病の進入を防げませんでした。それは、台湾の努力不足のせいではなく、世界の防疫体制から排除されたためであります。中国は、自分から他人に疫病を移してもなんのうしろめたさも無く、恥をかきることなど論外でした。結局、その SARS 感染容疑者が台湾を中継地として日本に入ってきたのです。日本は、なりそこなった被害者であることはもちろんのことですが、台湾が被害甚大という事実には日本は見向きもしなかった。この両者の共通の加害者は、台湾の世界防疫網加入阻止に全力を尽くしてきた張本人、中国でした。

日本と台湾のあいだに年間 200 万人近くの往来があります。中国の疫病が台湾に移って、日本に入っこないようにすることは、現状の防疫体制から見て、非常に困難です。それは、台湾の怠慢ではなく、台湾が世界の防疫網から排除されているためです。いくら台湾が必死に努力しても、日本の南の防疫網に開いている大きな穴を塞ぐことは、所詮無理です。

台湾は、WHO から排除されているかぎり、いくら警戒しても中国からの疫病侵入を完全に防ぐことは不可能です。このまま続けば、また中国疫病に感染した台湾人が日本に入ったり、あるいは中国疫病に感染した日本人が台湾から帰国したりして、日本が的外れの台湾非難の大合唱をすることもそう遠くないような感じがします。可笑しくも、日本に中国非難は起こりえません。

しかし、こんなことは簡単に解決できるはずでありません。台湾を世界の防疫網に入れること、すなわち WHO の一員になって貰うことです。

日本は、親日の台湾人のために台湾の WHO 加盟を支持する義理はありません。しかし、日本国民の生命のため、台湾の WHO 加盟を支持すべきである。いえいえ、台湾人がどう思っても関係ないです。日本人のため、台湾の首を捕まえ、尻を叩いても、蹴っても WHO に入っ貰わなければ日本は困るのです。わが日本のため、WHO に台湾を入れてもらっ、台湾に WHO 入っもらうのです。

国際的防疫へ 台湾のWHO参加を実現せよ

丘 哲治

2003 年に世界を震撼させた SARS（急性重症呼吸器症候群）に継ぎ、05 年に中国・青海省で新型の鳥インフルエンザが発生し、未知な新型感染症がいま徐々に世界へ広がりを見せていると言えます。一月宮崎県と岡山県で発生した鳥インフルエンザも渡り鳥などを媒体としたものと考えられ、幸いに早急な対応ですぐ終息宣言が出されました。厚生労働省によると、

人類が免疫を持たない新型インフルエンザが発生したならば日本国内で17万人から64万人が死に至ると推計されます。今後は、危険性が高い鳥インフルエンザが発生すれば、国全体は神経を集中して対応することが必要と警告しています。また、この鳥インフルエンザは各国が直面している世界的脅威のひとつであることが指摘されています。

こういった鳥インフルエンザやSARS等の新型感染症は、強い感染力に致死率が高い特徴を持つ上に、特效薬はありません。今のところ、国レベルでの対応は各国が、それぞれの税関で水際の防疫検査や感染拡大防止策などの手段しかありません。世界規模で対応するには、世界保健機関（WHO）を中心とする世界各国が緻密な情報交換や技術の提供などによる防疫ネットワークを構築し、世界中が洩れなく協力し合う以外にないことは論を俟ちません。そのため、WHOを通じて、国の間にお互いの正確な情報交換は、非常に大切なポイントです。

ところが、WHOには大きな過ちがあります。それは日本の隣国である台湾は1997年より、毎年WHO年次総会にオブザーバー参加を求めています。現在に至るまで実現することが出来ません。中国が理不尽な政治力でWHOに圧力を加え、その結果台湾はWHOの正会員だけじゃなくって、オブザーバーでさえ成れなかった。

この事態は、WHO憲章が定めた「すべての人びとが最高レベルの健康を追求すること」の目的、や「健康は人種や宗教、政治、社会状況の違いにより区別されない」の規定等のあらゆる人類の健康を保護する原則に酷く違反しています。国際法はもちろん、国際政治の面から見ても、医療と保健は人権の一部と見なされる。台湾が受けたこの不当な差別は世界が注視すべきと言わざるを得ません。

日本台湾医師連合が台湾のWHO未加盟問題に大変危惧しております。医療に係わる我々は、一般の方以上に伝染病の怖さや、それに対する公衆衛生の重要性を熟知し、注視しています。現に、2003年にアジアでSARSが流行した際に、台湾はWHO未加盟のために支援を受けることができず、経済と人命が甚大な被害を受けました。また、日本にも影響を及ぼしてしまったことは記憶に新しいところです。その反面、最近流行が懸念されている鳥インフルエンザが台湾では発生していないのに、WHOが台湾を流行地域と指定してしまった失態を演じました。このような矛盾を生み出した背景は台湾がWHO未加盟にあり、あるいは台湾を中国の一部とする考え方があると思われ。政治的な理由でWHOという国際機構に加入できない現実、悲しむべきと言えようしかありません。

台湾のWHO加入問題は別として、近年、東アジアの安全保障が俄かにクローズアップされている中で、平和を愛する日本の安全は少しずつ脅かされています。日台間がもっと緊密な関係を構築すれば、双方の国益にとっては非常に有意義なことになるはず。この視点から見ても、日本がもっと積極的に親日国家台湾の国際社会への完全復帰を手助けしたら、日本にとっても非常に大切なことではないかと思えます。

日本と台湾両国は、年間百万強ずつの国民がノービザで行き来しています。文化も盛んに交流していますし、経済も順調に伸びています。台湾は日本にとって4番目の貿易相手国となっています。そして何よりも、人権、自由や民主主義といった考え方と制度が共有しています。日

本台湾医師連合は台湾の国際社会復帰の第一歩であるWHOへの加盟が早期実現するよう、日本各界に働き掛けていきたいと考えております。

「病気に国境はない」。とりわけ台湾と至近距離にある日本は、国際防疫ネットワーク強化の観点から世界をリードし、台湾が一日も早く正式にWHOの加盟国になるよう、より一層強く支持して下さるようお願いしています。

台湾の加盟が実現したならば、これこそWHOが推奨する「Health for All」を実証することになります。

文責 丘哲治

浅論中華思想

東 昌明

前言：

台湾在 400 年進化中歷經数劫、由オランダ到蒋王朝外来政權統治、至今国民心神不寧、社会混乱、国家不得安定。幕後似有一隻黑手在興風作浪、操縱顛覆、神智清明識者、皆明瞭此乃中華思想餘毒殘穢在發飆、然而台灣的賢人志士、在 400 年的数劫中已被剷除一乾二淨、台湾本土思想尚未能成形出土、無以對抗、為了驅除心靈上的魔咒、扶平創傷、在現階段、我們唯有徹底了

解其來龍去脈、自能解開心靈困惑、不受其束縛支配、此編文章的主要目的即在此、意在說明中華思想並非何等神器聖物。

筆者將分三個段落、依循歷史上的証言來揭開中華思想的根源、中華思想的演變、以及中華思想在東アジア所造成的影響。

本文：

〈1〉 中華思想的根源：

首先、將由中華思想的定義切入。

1、中華思想的定義：

依京都大學、東洋史辭典的解說、中華思想是日本學界的用語、中華別名中夏、乃中國人美化自己國家的夢話、自認是世界的中心、世界的文明地帶、以此思惟把自己的民族當成世界文明、文化中心地帶、鄙視近隣周邦諸民族、引為野蠻未開化、非人間地域。

古代、諸文明民族、普遍有此優越自負矜持、但是沒有一個民族像中國舉凡政治、文化、外交、經濟諸分野在在自詡為世界的開拓先驅者、自古至今毫無減低、因此在近代史上造成許多悲劇、只要一日不除此種夜郎自大思惟、終必淪亡於時潮的巨浪下、為平等、自由的文明所吞噬。

中華思想的內涵是儒教、依東大教授溝口雄三先生 1988 年 10 月 12 日在朝日新聞發表的文言、“儒教乃是禮制、哲學思想、政治理念、中間指導層的責任理念、共同倫理、以及個人倫理等六個分野的綜合體制、日本的儒教僅導入個人倫理（五倫五常）、一般的處世訓、其他禮制、科舉、鄉約等社會體制毫無關連、在文化上與儒教思想代表孔孟思想有很大差異、因此日本並不屬於儒教文化圈域、與越南、朝鮮等的全面接受儒教大眾教化完全不同、因此在西洋文明衝擊時期、能接受並吸取其利點、不淪為反殖民、民族抵抗衝突的深淵裡、在東アジア唯一不受中華思想戕害的民族。

2、禮と中華思想：〈中華思想的原點〉

中國的中華思想的歷史、必須上溯至古代、借由孔子〈前 552~479〉論語〈前漢初、前二世紀頃書成〉上的言論不難發現其原點、如下述：

子曰、夷狄之有君、不如諸夏之亡也 〈八佾〉

〈夷狄之邦雖有帝君治國、却遠不如中原無帝君治世諸國、是蔑視夷狄〈野蠻人〉的言論、微管仲、吾其被髮左衽 〈憲問〉

〈如果沒有管仲將國家社會制度是正、今日我們將如同夷狄野蠻人披頭散髮、開左襟〉時值春秋戰國分裂時代、中國中夏尚無統一、不知存在於何方、只是中原諸國知識人彼此實踐禮儀作法、以此引為矜持、蔑視他邦為夷狄。

開始有“中國”的語詞出現、乃由孟子〈前 372~289〉的“孟子”〈孟子死後編纂。吾聞用夏變夷者、未聞於變夷者也。陳良楚產也、悅周公、仲尼之道、北學中國、北方之學者、未能或之先也。〈滕之公章句上〉

〈以中國的文化來感化夷狄野蠻人可以理解、未曾聽說反受教於夷狄野蠻人、陳良乃是夷狄楚國人喜愛周的公旦以及孔子之道而學習中國的文明文化其成就不垂於中國學者〉周公、孔子之道、亦即周的禮儀作法、其文明乃以“夏”語美稱、而施行周的禮儀作法地域則以夢幻語“中國”名之、現實上並沒有統一的國家。戴德、戴聖、在前世紀中期收錄前漢昭帝至宣帝間的禮儀作法稱之“禮記”、以此容入“中華”〈中夏〉容器〈文化醬罐〉中引為中國文明的內涵根基。亦即夏王朝、殷王朝、周王朝〈古代中原諸王朝先後傳承〉的禮儀作法先存在、繼由往後中原諸夏、諸國實踐傳承而美名為中國〈幻境的文明國、在漢朝國家正式統一後、以禮為內涵中國正式形成。

3、“禮”的實際：

實際上中國人所矜持的“禮”是什麼？並非是什麼了不得的東西。只是集結古代冠婚喪祭的禮儀作法而以更簡單的說、只是一種自我陶醉知識人為了有別於他人抬高身價的マナー而已。由荻生徂徠〈日本江戸期的儒者〉的言論可以得到明証。

“禮は天下万事の儀式也。これを学ぶは、今の人吉良小笠原などの諸禮故実を習ふがごとし。書籍を読むにも及ばず、只其所作を習ふを以てもとす。禮記は其諸禮の次第書なり。秦漢以後は、古の禮教亡びて、僅かに残るところ、儀禮、周禮禮記大戴禮なり。儀禮は、古の禮經の殘篇にて、經禮三百の數の中なり。”〈經子史要覽、禮記〉

4、宋代的理論武裝：

由西晉〈265～316〉到東晉〈317～420〉、中國中原都是由北狄鮮卑族王朝交替支配、北魏、東魏、西魏、北齊、北周、隋、唐順次、唐太宗實際上也是鮮卑族、因此唐朝廷有南史〈宋、南齊、梁、陳〉與北史〈北魏、東魏、西魏、北齊、北周、隋〉中國歷史以南史為正史〈為了維持中原漢族的正統、此乃篡改歷史的開端〉事實上、北史才是正統歷史傳承但是北狄不能見容於天命之列、鮮卑族的唐朝只有分別編纂南北史除此別無他法〈祖宗傳承得以保存、又能列入天命正統〉以後 歷經五代異族王朝割拠、10世紀經由漢族宋王朝統一中國、此時北狄並沒有完全平定、後統發展為キタイ〈遼〉ジュルチン〈金、モンゴル元〉。在這種緊迫時況下、北宋儒者司馬光 〈1019～1086〉捏造正統史、在編纂的“資治通鑑”〈紀元前403～後959、共1362年間的史書〉中、將鮮卑強的北朝比作キタイ的遼朝拒絕承認其皇帝為正統、主張周、秦、漢、南朝的諸王朝（南史）與宋代相承傳、只有宋的皇帝才是中國實際支配者。1127年金入侵南都、宋遷都臨安、在歷史篇年上稱南宋、而南宋儒者朱熹乃承繼上述儒學、中華思想集大成者、以“理氣論”為中華思想的理論根基、“禮論”為中華思想的中核。

朱子（1130～1200年）的理氣論：

禽獸、夷狄人間〈漢族、皆具理性〉與天理相連接的素性、而其素質所顯現出來的氣、則有清濁之分、禽獸夷狄的氣質混濁、如果不以“禮”教化、內涵濁理氣質不得清澄、亦即氣質的性不施予改變、夷狄〈キタイ遼、ジュルチン金、モンゴル元等〉無法成為中華之民。

禮論：

①儀禮經傳通解：以儀禮為經典、禮記為注釋書、對禮的綜合論述。

②家禮：以儀禮為Base、參考北宋司馬光的書儀、網羅有關冠婚喪祭諸手續的範本。

時南宋民間習俗半佛半儒、佛禮有凌駕儒禮之勢、朱子徒孫為抗拒時潮、乃以“禮”再度武裝中華思想、大力推行施教。

モンゴル族入侵宋亡、元朝成立、蒙古帝國以モンゴル高原為中心、版土延至中央ユーラシア、中國地域只是帝國的一部分、元朝編纂正史、1345年完成遼史、金史、宋史、以此為元朝正統性的基礎、元為明〈漢族〉所滅、明再亡於滿洲族“清”。17世紀清帝國成立、以モンゴル帝國復興繼承者自居、中國地域再度淪為夷狄之手、清帝國依民族分設適用法典、滿洲人以“八旗則例”、モンゴル人以“蒙古例”、チベット人以西藏事例“、漢族則以”大清律例“來治理國事、只有在中國地域才稱皇帝、其他支配領域則以ハーン稱名〈沿襲モンゴル帝國稱号〉。

漢族為異族夷狄所支配、以中國為世界文明中心的中華思想未曾消滅儒學知識分子、更加強固朱子理論、將其體系化、理想化、日日沈浸於夢幻虛境中、至西洋文明衝擊到來。

〈2〉 中華思想的演變：

1. 洋務運動時期的中華思想 〈1860～1894〉

西洋文明衝擊時期、清朝岌岌可危、有志之士〈漢族〉乃以曾國藩、李鴻章為主、唱言西洋文明乃源自古代中國、沒有必要學習吸收、只要恢復固有本體、加以發揚光大即能超越西方、亦即中體西用、實際上毫無改變、仍然以禮為中華思想中核〈中國傳統的禮制為本體、利用西洋的機械文明對於鄰國周邦夷狄觀無甚大改變、由薛福成〈1838~1894〉〈曾國藩四弟子之一〉出使英法義比四國日記〈1890年1月28日〉中的文言即可知。

“土民はみな外觀が醜惡、鹿や豚と異ならず、ありかわあらず氣象が開けず、見かけたベトナム人、ビルマ人そしてインド、マラヤ、アラブの人たちにしてもいずれも顔つきはみな真っ黒、背が低く愚かで、教養の高い中国人民や白くて立派な体格の欧州各國人と比べるとその差は雲泥の差に止まらない。”

2. 變法自強運動以後的中華思想

以康有為、梁啟超為主〈戊戌政變〉、禮制殘留、另注入孔子教〈孔孟思想〉以此來取代禮、此外大力鼓吹宣傳黃色人種〈漢種〉優越論。

康有為〈1858~1927〉：大同書、改良人種說。

大體上非州的黑人經數百年進化成印度的黑人、印度的黑人經數百年進化成棕〈褐〉色人種、再經二、三百年後、進化成黃色或白色人種〈不倫不類、胡言亂語〉

梁啟超〈1873~1929〉：飲冰室文集、論中國人種之將來。

將來能拓展世界的實力者乃中國人種、白人傲慢不能吃苦、黑、褐人種愚昧怠惰貧困、只有黃種人足以擔當大任、北美、澳洲由白人殖民、南美、非洲將由黃種人殖民。黃種人即是漢種、是文明後代、黃帝的子孫〈與古代神話黃帝的幻想相結託〉、黃帝由崑崙山脈出現、經帕米爾高原東進入中國、定居於黃河沿岸、向四方繁殖後代。〈胡言幻語、自我陶醉、此乃中華思想精髓〉。

3、滅滿興漢革命派（以譚嗣同、孫文、黃興革命三尊為代表）的中華思想；

將人種分為漢種、シベリア人種（トルコ、蒙古）。將日本列入漢種、為了合致打倒滿清言說、將滿州人列入異種。（譚嗣同的退化論）

（退化論起源於フランス的 ビュツフォン伯爵、推論黑人乃是白人劣性遺傳物、亦即白人退化成黑人、黑人退化成猿猴）。

中國人是漢種、漢種是優秀人種。但是彼時實際上是受清〔滿州異種〕所支配必須將其滅除、才能保持漢種優位、亦即利用中華思想煽動民族革命運動。

實際在進化論、人種論上並無所謂漢種。乃中國人在幻境中自作的人種、為了恢復往日中國人種優秀論、黃帝子孫優秀論、乃製造“中華”觀念語、以顯揚中國人優位。此種思想一直延伸到目前“中華民國”以及“中華人民共和國”上。台灣人族群深受其毒害、而不知所以然。

4、孫文的中華民族（孫中山全集 1919年）：

孫文滅清創建中華民國後、為了政治上的需要、1919年在解說三民主義時談到、漢人必須與滿、蒙、回、藏人誠實相待、融成一族（亦即五族共和）、。中國只有一個民族、稱之中華民族、此即中華民族語源的由來。

自古夢幻“中國”是世界文明圈、以王朝的禮儀作法施教、引為矜持。進入中世、更以“禮論”為內涵立論根基。但是接受西洋文明衝擊後近乎崩解、再度虛擬夢幻人種（漢種）。中國人是優秀人種、將文明、優良納為已有冠以“中華”、將劣質部誘為滿州族異種、因此必須加以排除。但是一旦漢種再度得天下後、基於政治上的考量、瞬即美名中國只有一個民族

(五族共和)“中華民族”。清帝國支配的領土、亦即中國的版圖。可悲的是チベット族(西藏)淪為中華思想下的犧牲品。(外蒙已獨立)

〈三〉 中華思想共有圈的形成:

1、ベトナム(越南):

由中世末期到近代, 中華思想遍布中國周邊鄰國, 再以各鄰國為中心(以有禮制文明教化自許之國)輻散至諸小國, 越南即是顯著的例子。

依中國史, 約十世紀後, 在中國地域成立的宋、元、明、清各王朝屢次出兵越南, 將越南列為屬國, 施以王教(王朝文明教化得以遂行處), 至十五世紀(1428年)越南黎朝開國之君黎利(1385~1433)驅退明兵成立以儒教禮制、科舉官僚制的集權國家体制由阮薦(越南儒者)撰寫的“平吳大誥”(勝利文告)中可略窺一二:

“越南乃文明國非夷狄之邦, 地理領域與中國不同, 風俗也不同, 越南的諸王朝(趙、丁、李、陳等)與中國地域各王朝相同也是受天命而立帝。以中國為北國, 而自稱南國, 與中國乃對等關係。”此對等國家意識的確立, 在自己勢力範圍圈內, 自認為文明人, 而歧視近鄰周邊異族(如現今的沙勞越、柬埔寨等)以夷狄待之, 自稱“京人”(越南多數民族キン族由來), 將周邊夷狄稱之土人。

越南以文明國自居, 對中國、ミヤム等大國以對等邦交關係相處, 對於カンボジア、沙勞越等小國則以中華思想的羅輯理論處以懷柔政策, 施展皇帝的威德, 例如在阮朝明帝時期, 經營柬埔寨カンボジア時設置越南式行政單位, 派遣越南官吏協助, 並授予カンボジア官員越南式官職, 除去佛教寺院, 改建儒教廟, 強制實施言語、服飾、同化政策等。

西洋文明衝擊時期, 淪為フランス殖民地, 但是並沒有改變中華思想意識, 甚至於在インドシナ概念形成時也毫無改變, 此由1930年代インドシナ共產黨的文献裡可以發現到證據, 文献裡對於越南民族的記載皆以キン族為主, 不提其他存在的少數民族, 進入四十年代才包攝其他少數民族。1954年依日内瓦協定, 越南被分斷為南北越, 北越追隨中國, 由執政勞動黨規約中可知仍然普遍接受中國人思想, 中國文化, 但是在中國文化大革命後, 越南共產主義者認識到必須與中國撇開距離, 因此以キン族為中核, 集結周邊民族, 集團性越南國民形成, 越南模式正式反應在各種不同政策上。南北統一後, 因中國系住民以及華僑的問題而發生的ポート・ピープル大悲劇事件, 很顯然就是中華思想毒素下的禍害。反觀目前台灣混亂情況, 何嘗不是中華思想毒害的後遺現象!(越南為了對抗中國的威脅, 認定華人乃是“中國の手先”因此由1975年四月以後訂定各項法令政策, 強迫華僑選擇歸屬, 發生的一連串悲劇——戰後“越南的華人, 華僑政策”(彭天)240~241頁。)

2、朝鮮:

17世紀朝鮮思想史文献上, 對朝鮮思想常冠以中華思想專有名詞, 依“童蒙先習”的肅宗王序, 宗時烈跋文1699年本有下述一段言詞。

“ああ、我が国は海の辺隅にあり、国土は狭小ではあるが、禮教音楽、法律制度、衣冠(身分秩序)文物(文化の産物)ことごとく中国の制度に従い、人倫は上属ではあかるく教化は下のものに行われた、風俗の美は中華を等しくなぞっている。華人(中国人)はこれを称して小中華という”

擬似越南開始自許僅次于中華, 由小中華出發, 然而朝鮮所仰慕的乃是明國漢王朝儒禮制, 因此“明”為異族滿州人消滅後, 不但背棄清文物反以正統中華自居, 以此矜持鄙視諸鄰邦。

到高麗時代為止，朝鮮尚以佛教立國，李式王朝開啓後，導入南宋朱子禮制，以儒教化大衆，以明朝刑法“大明律”為國法，強行儒禮制。16世紀後半，明朝知識人隨時潮演進，漸棄南宋朱子，改伺陽明學，陸象山學，但是朝鮮乃以朱子禮制為中核，鄙視明朝中華儒者，比中華的中國更中華。

以中華思想為中核，自視為文明禮儀之邦，鄙視近鄰琉球、日本指為夷狄至近代淪為夷狄日本的殖民地，〈1910~1945〉反日思潮源源不絕，其根源乃由此中華思想所延生，近日中國所發生的反日暴動，西安寸劇事件，亞洲杯足球事件，何嘗不是如出一徹。

韓國初代大統領李承晚在“儒教談話集”裡有下述一段言論：

“日本為日本海中三島倭人として離れて暮らしていた頃、我が文明と礼儀作法を学び、東洋の開化をころむっていたのだが、現今に至り、自分たちは昔から文化的な人種であるとかこつけ自慢しても歴史上の事実を拒むことができず、東洋の文明を韓国からもらったということ認めているのである（1958年）”。朝鮮人認為日本乃由朝鮮承習中華的禮，鄙視日本為夷狄異族，因此在政治上的反日思潮是根本上的問題與殖民與否並無甚大關連。

北朝鮮人也持相同看法，由下述記事可知：（日帝の檀君抹殺策動“民族朝鮮”1993, 8, 3付）

”日本の荒唐無稽な建国神話によってもクノム（やつら）の国家起源年代は紀元前660年をさらに越えることは出来ないが、我々の檀君神話（朝鮮の建国神話、類似中国の黄帝）や檀君に関する記録によれば、朝鮮の建国年代は紀元前2300年まで遡る。かくして日本の歴史が朝鮮より1600年以上も短いものとなり。従って自ら文化もその分だけ劣れたものとなる“

3、日本：

東アジア諸國中，唯一沒有導入中華禮制的國家，僅止於個體人倫五常，乃以自体文明為中心，賤視周鄰異邦，尤以德川幕府期為甚，其象徵語“皇朝、皇國”〈起於寬政期〉持世泰平，純朴忠厚人情風俗，乃是日本思想矜持的中核，而非禮制，在教學體制上也沒有儒教禮制“大學”等執行機構，德川時代的林大學頭“林羅山”也只不過是將軍幕僚，並無官學殿堂。明治維新前鄙視アジア諸國構圖已被形成，往後由於國體論主流思想的興隆，導致昭和期大東亞共榮圈構築欲望，踏入軍國主義帝政深淵。

4. 臺灣：

近世代（オランダ統治期～清朝支配時期），仍屬未開化島嶼，新興的移民社會，由於清朝消極的經營，國家行政力無法強力滲入社會各領域，因此臺灣社會並無漢族社會樣相，儒教意識型態的定位不明確，進入日本殖民地時代，設置日本式官僚體制、警政體制、國家型態構造正式定位，國家行政力深入各階層，當然更不是儒教文化圈，由於集權絕對的支配，造成從順無力的市民社會，提供蔣介石獨裁體制良好的從順社會基盤，國民黨統治時期以三民主義國教化，內容滲入儒教思想，但是社會已呈現斷層現象皇朝，皇國民思想（另一種中華思想的變異體）已深入民間社會各階層，儒禮，中華思想無法透徹大衆教化，而且在臺灣本土並無統一的本土思想，因此臺灣至今仍深受此兩種毒素艱熬翻騰，臺灣本土思想出土之日，亦即臺灣撥雲見日之時。

〈四〉結論：

將分本質性的特徵與地域性的特徵，兩方面來論述

A、本質性的特徵：

- (1) 中華思想、原本是“中国”古代儒教以禮（礼儀作法）為中核、知識人的一種內涵矜持、為了顯示煊耀與他人不同、實踐可能地域群体聚集類似部落（colony）稱之“中国”別名“夏”。此時尚無國家形態結構、至漢代、王朝在“中国”正式統一。知識人以此礼儀作法遍布王朝支配領域。以此自許、引為世界文明中心、並且鄙視周邦隣國、夷狄視之。但是漢族持續王朝的統一與支配在現實上有其困難、由中国史上記載可知屢遭夷狄異族所滅、劣等感日增、歷代知識人為了恢復自我矜持與往日榮威、一方面捏造正統史、另一方面加強理論武装、簡化礼制注入“理氣論”。促使幻境的“中国矜持”再生、由“夏”而發展出“中華”。
- (2) 至近世、接受西洋文明衝擊、人格更形劣等化、知識人洋務運動家乃以西洋進化論的人種論為基盤、提唱黃種優位論、以補足中華思想的缺憾擬恢復中国內涵矜持、變法自強運動家憂慮漢種衰退、乃導入黃帝神話、炎黃子孫優秀論、注入孔孟思想、補足中華思想中核欠缺、為排滿興漢將中国文明圈止於漢種、以中華思想為武器達到政治上的目的。
- (3) 滅清後、中国地域再度回歸漢族支配掌握、為謀求政治上的安定、乃擴大漢種解釋、企圖漢化異族、倡言五族共和、名“中華民族”並且引述西洋社會主義、共產主義乃中華思想的繼承者、為中華人民共和國的誕生提出理論背景根基、厚顏無恥以清帝國漢舊版土為中華思想支配領域。
孫中山選集 1924 年本、三民主義（民族主義第四講）有下述一段話：“近年ヨーロッパで盛行の新文化と話題の無政府主義と共產主義は、すべて我々中国に何千年も前からあった舊物である。例えば、黄老の政治学説は、とりもなおさず無政府主義である。——我々中国新青年は、未だに中国の舊学説を詳細に研究せず、これら（無政府主義など）の学説は、世界で最高最新だと思っているが、まったくヨーロッパでは最新でも中国では何千年も前にあったものだということを知らないのだ。さらにロシアで実行されたのは、實際は純粹な共產主義ではなく、マルクス主義である。マルクス主義は眞の共產主義ではない。ブルードン・バクーニの主張したものこそ眞の共產主義である。共產主義は外国では、ただ言論にしかすぎなくて、まだ完全なる実行はなされていないが、中国では洪秀全の時代にもう実行されているのである。“という表現がしました。（將土匪盜寇比成理論家、中国人的厚顏自大如此一般）
- (4) 東アジア諸國深受中華思想影響、越南是先驅者、中世紀末由明朝的支配下獨立、以中国為北國、自稱南國、採行中国禮制與官僚制度、中華化多數民族キン族自許“京人”鄙視隣邦小國、以夷狄視之稱之土人、受此咒厄折騰數百年不得翻身。
- (5) 其次是小中華思想的朝鮮、李氏開朝廢仏、採朱子禮制、以暴力手段強行儒教大眾教化、由礼儀作法實踐過程中、產生優越矜持、此自負優越意識在中国被夷狄滿清消滅後更形肥大化、自認乃明朝禮制正統繼承者、鄙視中国、到近世接受西洋文明衝擊、淪為日本殖民地、劣等感日增、在日本戰敗後、極力復興儒教、期待恢復往昔優越矜持、此乃今日反日動力的根源。

如上述東アジア諸國、彼此岐視對方的風俗文化、視對方為夷狄異族、至今毫無改變。

B、地域性的特徵

- (1) 與ヨーロッパ地域文明史相比較、東アジア文明圈の特徴は相当明確突出。
ヨーロッパ各地域文明、比如エジプト、シュメール、エーゲ以及ローマ帝国のラテン文明等、隨着帝国の滅亡也次第消失、有的甚至連文字也無法解讀。然而東アジア文明圈の中華思想則不同、由古至今仍然支柱中国；東亜、東南亜多少受其影響。
- (2) 東亜周辺諸国有中華思想の源由乃是对中国以及其他近隣諸国的一種自衛性反発現象。
朝鮮、越南古來受中国統治支配、文化上遭受岐視、因而導入中華思想比中国的中華更中華。以此反擊中国以及近隣諸国。日本雖然未接受中国支配、但是在精神、文化上亦遭受抑压、自衛性的反発、自許為皇朝、皇国、發展出皇国思想（中華思想の變異体）以反制中国等近隣諸国、傲視東亜。
- (3) 儒教只是中華思想の媒介内容物
中国文人、知識人提出中華思想、主要目的是想藉此自負、自許為世界文明の中心、以此作為岐視近隣諸国の支點、国勢衰危漢族瀕臨滅絶時、更在凶藉此挽回昔日榮光的一種精神武装、實際上儒教並非何許神聖利器、只是剛好是中国古有支配思想の憑藉物而已、日本雖非儒教文化圈、但是事實上仍受到中華思想波及。
- (4) 中国史與ヨーロッパ史最大不同點在其持續性
中国史の持續性實際上是奠定在正統史の虚構上、漢族正統王朝與異族王朝交織支配中国乃是中国の正統史、為了持續維持漢族の優位性、唯有捏造正統史、虚構幻想の文明国、中華得以持續蹂躪近隣諸国、由此東アジア諸国所謂“正確の歴史上の認識”（以自国乃是地域の盟主、自国の歴史觀是正確、強要他国認識）。依上述文言、實際上毫無意義、只是虚構正統史延長線上的認識而已、尤其是对中国而言。
- (5) 因此アジア NIES 諸国若期待以儒教文化圈、中華思想共同圈為基點來創造類似歐州的經濟共同体是絕對不可能成功的。

東アジア地域諸国、一人種、一民族、主權觀念高昂是其特徴、日本は倭族、中国は漢族、朝鮮は韓族、越南は京族、各民族掌握其国家政權、因此民族與国民（Nation）用詞不明、各民族思想特徵自認是文明の中心、地域の盟主、以自国文化優越性自負、同属黄色人種却相互排斥、視对方為夷狄、強要他国在歴史上作一正確認識、以自国、自民族為中心的自民族中心主義思想、日本の学界將之稱為“普通中華思想”
文責 東昌明 H16, 11, 28（日）

映画監督呉念真氏の来日記念講演

本稿は平成 17 年 2 月 20 日にホテル センチュリーハイアットで行われた「日本台湾医師連合特別講演会」（主催・日本台湾医師連合）における映画監督呉念真さんの講演録です。

（文責・日本台湾医師連合）

生きて行く台湾—一人々の暮らしの観点から

（日本統治時代～現代）

私は簡単な日本語しかしゃべれません。皆さん、こんばんは。今日はここに来ることができて非常に嬉しいです。さっき聞くのを忘れてましたが、北京語で講演したほうがいいですか。それとも台湾語でしたほうがいいですか。台湾語ですね。台湾語の場合、映画に関する言葉は田村さんには分かりづらいかもしれないと思って。まあ、台湾語でも構いませんが…。今日は長い内容を準備して

きたのですが、時間の制限があるため、簡潔に話すことにします。さきほど数えてみたのですが、「父さん」という映画を作ってちょうど十年目を迎えます。私にはそれに関する思い出がたくさんあります。父は一九九〇年に、この世を去りました。一九九一年の正月、私は東京にきました。

私は一九九一年の正月、ある機会に東京にきました。母は私にこう言いました「あなたの父さんは東京に行きたかったが、ずっと機会がなかった。今回の機会を借りて連れてやったら」と。母は父の写真を用意して、その後ろに台湾の冥紙（死んだ人があの世界で使うお金）をつけて私に渡しました。父のお陰かどうかはわかりませんが、飛行機が東京に近づいたとき、ちょうど着陸する前、富士山が目の前に現れました。夕日に包まれてとても美しかったです。

私は父の写真を手荷物に入れました。手荷物のチャックを引くのを忘れたせいか、通関するとき、若い職員に「何か申告するものはございませんか」と聞かれました。私は「いいえ」と答えました。彼は荷物を検査するとき、その写真を見て「これは何でしょうか」と聞いてきました。急に聞かれたので何をどう説明すればいいのか分からず、しばらく間をおいてこう答えました「これは父です。これは彼の魂です」と。それで、彼は深々と父にお辞儀をしました。それは私が彼に「父はずっと東京の皇居と富士山を見たかった。しかしその願いも叶わないまま亡くなったので、連れて来ました」と説明したからです。

私は、それに非常に感動を覚えました。そしてこう思いました。彼のお辞儀は、父へのものではなく、台湾の歴史におけるあの世代の人々に対し、自分の心を表明しようとしたお辞儀なのだ。

私はよく『父さん』を撮ったのは、あなたのお父さんを記念するためですよ」と聞かれます。そのつど私は簡単に「はい」と答えているのですが、しかし私の多くの友人はみな知っています。私がこの映画を書いたきっかけを言いましょう。李登輝が初めて大統領に就任した時のことでした。皆さんご存知のように、昔は旧暦のお正月になると、大統領は必ずテレビに出て、全国の同胞に向って演説しますが、李登輝が大統領になった年に、彼は台湾語で演説しました。そのとき父は涙を流しながら「台湾人がやっと大統領になった」と言いました。

このような世代の人々を、我々はこれまで大いに誤解し、軽視し、批判してきました。そこでその世代のためにこの映画を撮ろうと考えたのです。

李登輝が大統領になって間もなく、記者を務める私の多くの外省人の友人たちは新聞でこう言い始めました「李登輝の北京語は、どうしてそんなにめちゃくちゃなのか」と。それは彼の文法が北京語の文法とはだいぶかけ離れていたからです。たとえば、先に話すべきところを後にし、後にしゃべるべきところを先にするといった具合です。そのため記者らは毎日「北京語がどうしてこうなるんだ」と罵ったわけです。

そのとき私は突然わかったのです「なるほど、私の義理の父がしゃべっている北京語も全く同だ」と。義理の父は早稲田卒ですが、北京語はめちゃくちゃな表現がほとんどです。それは日本語が教育上の言語で、母語が台湾語である彼らにとって、北京語は外来語だからです。ゆえに李登輝は記者から北京語で質問されると、必ずそれを日本語に訳し、日本語で質問の意味

を理解してから、日本語で回答を考え、そしてそれを北京語に訳して返答していたのです。

あたかも我々の英語が下手で、あまり達者じゃないのと同じようなものです。あるアメリカ人が我々に、Where are you going tomorrow? (明日、どこに行くのですか) と聞き、それに対して、I go to Yokohama tomorrow. (明日、横浜に行きます) と答えるとしましょう。このような訳し方はまだ通じます。アメリカ人にはまだ分かります。しかしちょっとした複雑な英語の翻訳文になると、文法は必然に乱れてしまうのです。外国人には通じるかもしれませんが、その文法、そのしゃべっている英語は「どうしてそんなにおかしいのか」と思われることでしよう。若い外省人の記者らは、彼らの歴史的背景に立ち入ってそれを理解したことがないわけです。彼らは、この人たちが生まれてからずっと日本教育を受けたということを見逃していました。一夜にして中国人にならなければならなかったことを見逃していました。彼らは完全にその歴史を忘れてしまったので

父はあまり教育を受けなかったが、彼が言った名言を、私は今でも覚えています。それは、私が中学を卒業してから、台北へ仕事に行くときのことです。私は在学中、成績がよかったので、父は「台北へ仕事に行くのはもったいない」と惜しんでいました。そして私を慰めるために、こう言いました「そんなにたくさん勉強したって、時々役に立たない場合もある『あいうえお』が一夜にしてウタ口に変ってしまったように」と。

両親は我々子供たちに知られたくないことは、全部日本語で話しました。我々もまた、両親に知られたくないことがあったら、北京語をしゃべりました。父はよく「日本はいい国だ、素晴らしい国だ」と口にしていました。またよくNHKのラジオを聞いていました。仕事が終わって家に帰るとNHKを聞くというのは彼の日課でしたから、NHKラジオの音楽を、私は今でも覚えています。父は放送を聞き終わると、必ずそれを訳して我々に説明しました。そして日本は現在どうこうだとか、日本はいい国だ、素晴らしい国だということです。すると妹は必ず「漢奸だ」といいました。私の場合はだんだん大きくなるにしたがい、やはり同じ男として、父の世代の気持ちを理解し始めるようになりました。

そして常に思うのは、その世代は台湾で最も寂しい世代であるということです。私はある日、日本人と話すチャンスがありました。私は彼らに「あなたたちはいつもアメリカ人がベトナム戦争に行き、多くの戦争孤児を残したと笑っていますが、日本がアジアの多くの国々を占領したとき、多くの文化孤児を残したということを考えたことはありませんか」と言いました。

台湾にとって、さらに悲哀とでもいうべきものは、引き揚げた日本人のあとを継いで台湾を占領しに来たのが中国だったことです。中国は日本との敵対関係が最も激しかった国家でした。中国は、基本的にはほかの国々を理解しようとする気持ちを持っていますが、日本に対してはそうとは限らないのです。たとえば、前のサッカー試合（二〇〇四年のアジアワールドカップ）を見ればわかります。中国は日本との試合では、何としてでも勝ちたいのです。もし中国が負けたら、どんな態度に出るかは想像に難くありません。

次の新しい統治者に直面した李登輝や義理の父、そして私の父の世代の歴史と悲哀を、その次の世代に理解させることは非常に難しいと思います。しかし我々が認めざるを得ないのは、台湾は近代の歴史において二つの国から大きな影響を受けているということです。つまり一

つは日本であり、一つはアメリカです。

私はずっと前から、映画や文学のような表現で、より広い心をもって、あの世代と、現在において影響を受けている我々の世代とを理解することを試みてきました。私は初めて映画を撮影したとき、すぐ頭に浮かんできたのが「父さん」という映画を撮影することでした。すなわち、歴史で忘れられた彼らの世代のことです。そこで映画のタイトルも「父さん」と名付けたのです。この映画の英文タイトルはA borrowed life、つまり「かりそめの人生」でした。なぜなら、彼らの世代は、どこの国家に生まれるかはすでに決まっており、自らは選択できなかつた。教育の仕方も決められており、自らは選択できなかつた。ある日、他の国の国民になるということも、自らは選択できなかつた。このようにすべての過程において、彼らは自らの意志で選択するということができませんでした。さらには、彼らが年を取るにつれてもたらされた、次の世代との衝突、文化や歴史のアイデンティティーでの衝突すら、そこから逃れることはできませんでした。そこで私は、この映画を通して、我々に誤解されたあの世代の人々のことがはっきりと認識されることを望んだのです。

一つの例を取り上げましょう。我が家にテレビが入ったのは一九七五年で、それ以来、父は毎日テレビをつけました。当時は三つのチャンネルだけでしたが、どれも北京語の番組ばかりで、父にわかるわけありませんでした。見てわかるのは女性向けの番組で、それは台湾語のドラマや歌仔戯でした。父がテレビをつけるたびに我々がいつも驚かされたのは、いつも不満げに力いっぱいテレビを叩くことです。父はテレビを消すたびに「死んじまえ」と怒りあらわしていました。

ある日のことです。記者が鉱山労働者をインタビューするために、わが家を訪れ、父に一枚の名刺を渡して「聯合報の記者です。鉱山労働者のインタビューをしたいのです」と。皆さん、父はそれにどう答えたと思いますか。こう言ったのです「台湾には公論報が発行禁止にされて以来、新聞なんかもうなくなったはずだ。記者という職業がどこにあるのか」と。

ですから、時々こう感ぜざるを得ないのです。彼らは歴史的な生命、あるいは文化的背景のため、寂しい世界にしか生きることができなかつたのではないかと。

それにひきかえ、父たちとは異なる立場の人たちがいます。私が非常に面白いと思う人たちです。それは台湾文化を守り、そして台湾が歴史過程で受けた異民族文化を守ってきた人たちです。この非常に偉大な人たちは、すなわち現在台湾にいる、七十か八十歳のお婆ちゃんたちです。

最近、皆さんはよく台湾文化の問題を話しています。それに関して、学者たちはみな難しい学術論文を書いています。台湾文化はいったいいかなる文化なのか、どういう文化であるべきかなどを難しく書いています。しかし、文化は私にとって、ただ単なる生活における種々の表現形式にすぎません。

日本教育を受けた父の世代は堅苦しくて頑固であるのに対して、台湾のお婆ちゃんたちは非常にやさしいのです。彼女らはやさしく台湾の文化を包容し、かなり自信をもってそれを包

んできたと、つくづく感じています。

ここで私の義理の母を例に取りましょう。彼女は日本統治の時代は高卒で、一応エリートです。彼女は義理の父と話すとき、ほとんど日本語と台湾語を使っていました。彼女は北京語を勉強しなかったです。それは、彼女は北京語が自分には関係ないと思っていたからです。ところがある日、彼女は北京語の勉強を始めました。なぜなら、だんだん大きくなった孫たちが、国民政府の教育によって北京語を話すからです。教育のみならず、テレビでさえもみな北京語です。周りの環境はすべて北京語なので、孫たちはあまり台湾語を話せないのです。

私が最も尊敬している李鴻禧教授はかつて「お父さんたちは台湾のために命を賭けているのに、その子供たちは全く台湾語を話せない」と言ったことがあります。お爺さんは孫たちと話すとき、いつも簡単な北京語しか話さないのです。孫たちは台湾語が話せないから、お爺さんも孫たちとの会話を断念せざるを得ません。しかし、お婆ちゃんは違います。お婆ちゃんは孫たちと話すために、一生懸命に北京語を勉強したのです。

しかし、義理の母は北京語の勉強がよくできているかという点、そうでもありません。ただ彼女自身は非常に自信を持っています。ちょっとした勉強でも、自分はよくできていると思っていますのです。ある日、義理の母は生け花の講座に参加しました。講座を申し込むときに、まずアンケートに記入するのですが、そこには「言語」という項目があります。彼女はそれを見て、「日本語と台湾語が話せる」と書きました。北京語については「普通」と書きました。彼女は自分の北京語はどこに行っても通じると思っているのです。だから役所に用事で行っても、彼女はいつも自分の北京語で職員としゃべるのです。先月、義理の母と一緒にテレビを見ていたとき、陳水扁がしゃべっているのを聞いて、彼女は私にこう言いました。「陳水扁はどうして台湾語なまりの北京語を話しているの」と。

近年、台湾の変化は非常に大きいものがあります。義理の父は十一人の子供に恵まれています。男は六人で、女は五人です。子供のほとんどは海外にいます。特にアメリカです。アメリカに住んでいる甥や姪たちは大きくなり、毎年の夏休みはほとんど台湾に戻り、私と一緒に遊んでいます。それは、私が彼らの父のように厳しくないからです。彼らは叔父さん子で、よく私の家に泊まるのです。ある時期、私はよく彼らにバーゲンのことを教えていました。台湾のバーゲンは海外と違って、七折と書いてあるが、実際三割しか引いてくれません。三折の場合は、つまり七割引です。このようなバーゲンの話は、何年間も続いていたのです。

彼らのお婆ちゃんは、今度アメリカに生まれ育った孫たちと接触せざるを得なくなりました。アメリカに生まれ育った孫たちは、台湾語はむろん、北京語でさえ思うように話せません。最も上手なのは英語です。はたして、お婆ちゃんは どうやって彼らと話すのでしょうか。義理の父は「おはよう」という英語しかしゃべられません。彼の場合「おはよう」の一言で済みますが、お婆ちゃんの場合は違うのです。お婆ちゃんは孫たちの名前を呼ぶとき、彼らの名前を覚えなければなりません。しかし、孫たちの名前は全部外国の名前です。彼女はそれを覚えるのがおっくうでした。しかし、彼女はそれを克服して、自らの独特な呼び方で彼らの名前を呼んでいます。

たとえば、トニーという孫には、いつも「トニーア」と呼ぶのです。トニーアは、台湾人が人の名前を呼ぶときの言い方です。台湾には、名前の後ろに「ア」という音をつける習慣があります。彼女はこのように台湾の習慣で孫たちの名前を呼ぶのです。マイコという孫がいます。お婆ちゃんはマイコという名前を覚えられないから、勝手に文字をつけてマイマコというふうに呼ぶのです。音をつけて呼ぶ場合もあれば、意味をつけて呼ぶ場合もあります。マイコを呼ぶ場合は後者に属します。

彼女は、こういうふうに人の名前を呼ぶのが間違っていると思っ
ていません。なぜなら、彼女は自信があって、これを包容したから
です。ある日、彼女は我々娘婿を自宅に呼んでマージャンをやら
せました。娘婿の中では、外省人もいれば台湾人もいます。彼女
は日本教育を受けた女性なので、いつも娘婿たちが仲良くしてほ
しいと思っているのです。大人が来たら、もちろん子供も一緒に
来ます。大人たちがマージャンをやっているとき、子供たちはド
ンチャン騒ぎです。そこでお婆ちゃんは子供たちを外に連れて行
きました。

彼女は七、八人の孫を外に連れ出して、二時間くらい経ってか
ら戻って来ました。子供たちは帰った後も、英語をしゃべりなが
ら大騒ぎを続けました。それを見たお婆ちゃんは怒り出しまし
た。彼女は子供たちの一人を呼んで台湾語で「きみは悪い子、き
みは悪い子」と怒鳴ったのです。マージャンをやっている我々
はその怒鳴り声を聞いてみんな笑っていました。彼女は子供に
こう怒鳴ったのです。「きみはハンバーグも食べたし、ホット
ドッグも食べたのに、今com何plain（文句をいう）をして
いるのか」と。

彼女はcomplainという文字を二分にして、真ん中に何という
言葉を入れたのです。Com何plainというふうに、台湾語と英
語を併用したのです。私はそれを聞き、ほかの三人に「お母さ
んは新しい名詞を発明したね、ほら、あのCom何plainという
言葉。これは将来きっと台湾の一部になるでしょう」と言いま
した。

我々は彼女のやり方を、つぎのように理解できるのではないで
しょうか。つまり、一つの国家、あるいは地域は、自分に自信
を持つようになったとき、あらゆる外来文化を自らの文化の一
部分にすることができるということです。しかも、自由にそれ
らを駆使して全く恥ずかしいとも思わずに。

つまり、台湾の新しい文化もこのように生まれてくるのです。
外来の言語にせよ、文化にせよ、いずれもこのように台湾文
化の一部となっているのです。これらの文化は決して学者やエ
リートたちによって規定せられるものでもなければ、統治者
によって規制せられるものでもありません。

我々のしゃべっている台湾語をよく観察すると、その中にはた
くさんの外来語が入っているのに気付きます。たとえば台北市
内でタクシーを利用するとき、運転手さんに「今日の走りは
いかがですか」と聞くと、大体「アタリがいい」と答えるの
です。さらに「毎日そうなんですか」と聞くと「チャンス、
チャンス」と答えるのです。「アタリ」「チャンス」はすで
に台湾語の一部となっているのです。同様に、台湾語の多く
も、現在北京語の一部となっています。たとえば、「当選」「
落選」などがそれです。

これらを見れば、このように考えることができます。つまり、我々は自分に対して自信を持つようになったら、たとえ外来のものでも自分のものとして、まったく恥ずかしさも感じることなく利用することができる。そして外来のものに対して泰然自若としていれば、我々の中に自然に新しい文化の命が宿るのだと。

一つの例を挙げましょう。三年前、私は撮影で屏東の排湾族（パイワン族）の村に行きました。本来、台湾の原住民は、あまり自分が原住民であるということを知られなくなかったので、だからつねに自らの出自を隠していました。たとえば、私が一番反感を抱く原住民議員・金素梅という方がいます。彼女はもともと俳優でした。昔、彼女のことを原住民だと言ったら、彼女は必ず怒るのです。しかし、皮肉なことに、彼女は現在、原住民の代表者となっています。

台湾では、だんだん文化の多元化にしたがって、原住民の地位も昔と比べられないほど向上しています。そして人一倍自らの出自を誇りに思っています。もちろん現在では原住民はみな自信をもって自らの言葉をしゃべっています。私が屏東の排湾族の村に撮影に行ったとき、彼らのラジオ放送に注意を払いました。昔、村長がラジオを放送するときは全て北京語でしゃべりました。ところが今では原住民精神を強調するために、全部原住民の言葉でしゃべっています。しかし、彼らの言葉は私には大体分かるのです。なぜなら、その中にたくさんの外来語が入っているからです。たとえば、先生（医者）、病院などです。これらの言葉は日本統治の時代に入ったもので、今では彼らの言葉として使われているわけです。

ある日、私が朝七時くらい起きて、村長の放送を聞きました。彼はこう言いました。「ア～ブラブラベラベラ…十時。ア～バラバラピラピラ…身分証明書。オ～ピカピカブカブカ…民衆サービスセンター。ア～ティラティラゾラゾラ…肛門検査です」と。このように、わけ分からない話の中に、たくさんの外来語が入っているのです。なぜ、彼らの言語世界はこうなっているのかというと、彼らは自分に対して自信を持っているから、外来のものも自然と自らのものになっているからです。

私の友達によく「台湾は幸か不幸か、本当によくわからない」と言います。父もかつては似たような話をしたことがあります。彼はこう言いました。台湾は地理的に大陸、あるいは日本に近づいたほうがいいものを、なぜ両者の間に位置しているのだろう。こんな地理に置かれたからこそ、多くの国々によって蹂躪されたのだ。これは台湾にとって幸運なのか不幸なのかはよくわからないが、その後さまざまな文化が自然に残る。蹂躪された後、確かに廃墟になるに違いないが、それに続くのは百花斉放ではないだろうか」と。

台湾の地名を少しでも研究すれば、すべての地名にその歴史と由来があることが分かります。それぞれにストーリーがあるのです。たとえば、台湾の北部に三貂嶺という地名があります。昔、外省人の先生が我々に教えるとき、こう説明しました。「なぜ三貂嶺というのかというと、それは山に貂が三匹いるからです」と。皆さんの知っているとおり、貂は寒いところにしかいません。台湾はこんなに暑いのに、どうして貂がいるのでしょうか。いるとしたら、それはきっと怪物に違いありません。そしてその後ずいぶんあとになり、私はやっと分かったのです。この地名はスペイン人がそこを占領したときに付けたものだったのです。当時の名は San

Diego (サンディエゴ) でした。皆さんは自分で調べたらすぐ分かることですが、スペインによって名付けられた San Diego (サンディエゴ) というところは、世界で百を超えています。たとえば、我々がよく言う Formosa (フォルモサ)、つまり美しい島は、二百を超えています。基隆 (キールン) に、三沙湾という地名がありますが、それはサンサルバドルから来たものです。

もちろん台湾を占領した日本人も多くの地名を残しています。たとえば、最も有名なのが高雄です。もともとは打狗 (タカオ) であったのが高雄になったわけですが、これは面白くないです。東部に非常に優雅な地名があります。舞鶴です。鶴が舞い上がっている姿を地名にしているのです。これらはすべて日本人が名付けた地名です。

中国人が來台した後、さらに中国めいた地名や道の名前が増えました。たとえば、中正路、中山路、復興郷などです。アメリカの影響力がだんだん台湾に進出しているとき、ルーズベルトという道の名前も出て来ました。台北を見ればわかるように、これらの地名や道の名前は、色々な時代のものがすべて融合しています。たとえば、大稻埕という古い地名があります。それに西門町が加わっています。現在では、ワーナー (映画館の名前) というのがあります。

民衆も当たり前のように、これらの地名を使っています。昔は統治者の要求に応じ、彼らの望むとおりに地名は改められました。しかし現在では逆です。民主化以降、文化の形成は民衆によって行われ、あらゆる変革も上から下ではなく、下から上へという形で展開するケースが多いのです。したがって、地名の改変も、もはや昔のようなことはあり得ません。

しかし、別の視角からみれば、このような変化は時々我々に一種の寂しさを与えてくれます。つまりあの世代の人々の寂しさです。ある日、私は義理の母と一緒に日本のテレビ番組を見ていました。彼女はほとんど日本のテレビ番組しか見ません。特にNHKです。すると彼女は突然「あの女は一体何をしゃべっているの」と私に言ったのです。それは話の中で communication (コミュニケーション) という言葉が出たからです。それで「あの女は一体何の日本語をしゃべっているの」と。私は「お母さん、あの女性は日本人だよ」と言ったのですが、彼女は納得いかないようでした。そこで私は「あの言葉の英語は communication であり、話し合い、交通など意味があるんだ」と説明したのですが、そのとき私は初めて彼女の寂しく悲しい顔を見たのです。なぜなら、以前なら日本に関する話は、すべてあの世代の人が我々に解釈してくれていたからです。つまり、解釈の特権は彼らにあったのです。だから彼女は、次の世代の知っている日本のものは、もはや自分には分からなくなっていると気付いたのではないのでしょうか。

お正月になると、アメリカの子供や孫たちは必ず台湾に戻るのですが、義理の母は最近、体の具合が悪いにもかかわらず、子供や孫たちに台湾の景色を見せるため、わざわざバスをチャーターして旅行に出掛けました。一行は二、三十人もいました。私はちょうど用事があったので、一人で家で本を読んでいた。一行が戻ると、その中の一人が私に「お正月は何をして過ごしたの」と聞いてきました。私は「大体本を読んでいたよ」と答えました。「何を讀んだの」「面白かったの」と聞くので「村上春樹の『アフターダーク』と宮部美幸の『火車』を讀んだ。宮本輝の『流転の海』はまだ途中だ」と答えました。そして「村上春樹の作品は面白くないから、買うまでもないよ」と話したら、義理の母からこう言われました。「昔は私たちが日本の本を讀むと、す

ぐ漢奸と呼んだくせに」と。さらには「日本の本を読むばかりか、日本の漫画を買って、テレビドラマを作っているなんて、本当に笑ってしまうね」と皮肉まで言われました。それは私の会社が弘兼憲史の漫画を買って、そのテレビドラマを作ろうとしていたことを言ったのです。

統治者の文化政策がすでに機能していないことに気付いたならば、つまり、上から下への文化政策より、下から上への改革気風の方が強いという現実気付いたならば、我々はより自信を持つことができます。そしてさらに進んで外来の多くのものをも自分のものにすることができると思います。

このことを理解できるなら、次のようなことも容易に納得することができるでしょう。すなわち、劣等感を持つ、自らの文化にコンプレックスを持つ国は、他国の文化を摂取する際、往々にしてそれらの文化を拒否することなく、取捨選択なしで全面的に受け入れがちであるということです。もし、自民族に自信を持つようになったら、我々は自らが摂取してきた外来文化の良し悪しを主体的に取捨選択することができるはずで

台湾の現在における最も大きな問題は、当時の統治者が残した二つの極端な文化政策です。台湾に亡命に来た統治者は強い反日感情を持っていたため、台湾に残る日本文化を全面的に排斥しようとしていました。しかし、その後、強力なアメリカ文化に直面すると、彼らはそれを拒絶せず、全面的に受け入れたのです。よく注意すればわかるように、台湾の留学生の行き先はほとんどがアメリカです。留学生の八割はアメリカに行くのです。彼らが吸収したアメリカ文化は、彼らの帰国などによって台湾にもたらされました。そしてこのアメリカ文化の導入は、ほとんど主体的な取捨選択を通さずに行われたのです。

一つ例を挙げれば、皆さんがあまり気付いていないかもしれませんが、台北市は狭いにもかかわらず、道は日本よりも広く、二車線の道で四台の車が走ることができます。なぜならそれはアメリカの基準にしたがって作られたからです。ですから、駐車場も日本と比べるとずっと大きいです。二つのスペースに車を三台泊めることができます。もっとも恐ろしいのは建築です。アメリカの気候は大陸気候のため、あまり雨が降りません。ですから、アメリカに建築に学びに行ってきた人が家を建てる時、往々にして雨を遮るひさしをつけないのです。台湾はよく雨が降ります。雨が降ったら、必ず家の窓や門にかかってしまうのです。もし、家にひさしがついていたら、雨はかかって来ないはずで

台湾の家の壁は大体ペンキを塗りますが、長い間雨に侵食されると自然に剥がれ、なかのコンクリートも出て来ます。そこで台湾人はだんだん自分で家にひさしをつけるようになります。しかし建築家でも何でも一般の人はそうしていくうちに、家の綺麗な外観を壊してしまうのです。以上の例で私がつくづく感じるのは、我々の生活文化に対する理解がどれくらい大切かということです。

ある日、私は外省人の友達に「私は父が亡くなるまで、あまり彼と話さなかった」と話すと、彼は「あなたの幼少時代は、きっと楽しいものではなかったのでしょうか」と言いました。なぜ彼はそう断言したかという、それは彼が常に自らの規準で私を見ているからです。台湾における外省人のお父さんはよく子供と遊びます。もし父が私のような大の大人に、急に親しく接してきたならば、私はきっと「父はどうかしてる」と思うことでしょう。人間は教育背景の異なりにより、みなそれぞれ性格が違うのです。この前、台湾の若者が書いたテレビドラマの脚本を読みました。それを読んで私は思わずに笑い出してしまいました。なぜなら、彼らが書いたあの時代の台湾人は、台湾のどこにもいないものだからです。

もう一つ例を取り上げれば、両親の世代はよく口喧嘩で愛情を表現します。父は五十歳前後でだんだん体が弱くなり、あまり仕事ができなくなりました。そして夜はよくマージャンに出掛けました。ある日、雨が降ってきて、びしょ濡れで帰ってきた父が慌てて家に入ってきました。夜中、ちょっとした音でも聞こえるから、母はすぐ起きてタオルを渡しに行ったのです。渡したとき、父にこう言いました「あんた、死んだほうがいいよ」と。父が体や髪の毛を拭いているのを見て、母は再びこう怒鳴りました「病気になるのはあなただけど、看病するのはいつも私たちです。あなたはただ病床にいればいいでしょう。看病するのはどうせ私たちだから」と。そのとき、ちょうど私も家にいたから、わざとこう言いました「息子がもし台北だったら、あなたを見舞うために休みを取らなければならなかったでしょう」と。それを聞いた父は、タオルを放り投げて「畜生」と言い捨てたのです。この「畜生」という言葉は「わかったよ、お嬢さん。タオルありがとうよ」という意味です。私はいつも外省人の友達にこう言っています。

それもまた一種の感情表現です。我々はそれを理解しなければなりません。私は最近よくあの世代の人を理解したうえでものを表現しています。私は今でも中学に合格したときのことを覚えています。私は村で初めてトップクラスの学校に合格しました。そこで里長は村で放送をしました。それを聞いたある村民は父に「おめでとう」とわざわざ言いに来ました。すると父は「小さいときは偉いかもしれないが、大人になってどうなるかはわからない」と答えました。

ある朝、目が覚めた私はテーブルに真新しい万年筆が置いてあるのを発見し、きっと父が昨夜買ってきたものだろうと思いました。父はまだ寝ており、起すことも怖かったので、子供の間で「あれは誰のために買ってきたのだろう」と話していました。妹が万年筆をゆすりはじめると「お前は何歳だと思ってるんだ。万年筆を使うなんて」と奥から父の声が聞こえました。

そのときはやっと分かりました。あれは父が私の合格祝いのために買ってくれたものだったのです。彼は言葉で褒める代わりに、プレゼントを買ってくれたのです。私はそれをもって喜んで開けようとする、父は「それは高いからね。もし壊したら、知らないぞ」と言うのです。このように、人はそれぞれ感情の表し方が違います。どこのどの民族もそれぞれ受ける教育が異なるから、その感情表現の仕方も当然同じわけがありません。我々は相手の気持ちを理解し包容しなければならないのです。私はいつもそのように思うのです。

私は今年、ある電気会社からテレビのコマーシャルの仕事を依頼されました。私は社長さんに、

さきほど話したような感情の表現でコマーシャルを制作したい旨を伝えました。彼からは「そのようなやり方で消費者に伝わるのだろうか」と言われましたが、私は「やってみようではありませんか」と言いました。

その電気会社はテープレコーダーを売るために、無期限の修理保障をつけています。そこで私は次のようなコマーシャルを制作しました。

ある田舎の子供がお父さんの留守中に、勝手にテープレコーダーをつけて踊り始める。そこへお父さんが帰って来た。その気配に気付いた子供は慌ててテープレコーダーを消そうとしたが、壊してしまった。そこで子供は何事もなかったかのように、自分の部屋に戻って勉強しているふりをするのだが、お父さんは家に入った途端、子供に向かって「ろくに勉強もしていないくせに、毎日一体何をしてんだ」と怒鳴る。それを聞いた子供は自分の成績をお父さんに見せる。成績はかなり優秀だが、お父さんはそれを見ても褒めもしない。何日か経って、お父さんはその電気会社のテープレコーダーを買って来て、それをテーブルに置き、子供にこう言う。「これは高いからな。もし壊したら、知らないぞ」と。それを聞いたお母さんは「それは全国電気の商品ではないの。無期限の修理の保障が付いてるんでしょ。だから壊しても平気よ」と話す。するとお父さんは「その話はよせ。今子供を教育してるんだから」と言う。コマーシャルの内容は大体こんな感じです。

このコマーシャルを見た台湾人はみな私に「本当に面白いですね。うちの父もあんな感じですよ」と言うのです。しかし、外省人が制作しているラジオ番組 New98 は、このコマーシャルを「これは台湾の亭主関白だ」と酷評していました。

この経験は我々にいい教訓を与えてくれました。つまり、より広い胸襟で自信をもってすれば、我々は自らの歴史における過ちを反省することができるということです。だとすれば、我々はあらゆるものを受け入れることができるようになります。もし自らの心を閉ざして他者と接触しないようにすれば、我々は永遠に他者の悪いところしかわからず、永遠に他者のものを拒絶するだけです。台湾は長年にわたる努力の結果、少数の権力者が大多数の民衆を統治するという政治体制はなくなりました。時代は次第に変わりつつあり、台湾におけるどの民族も、みな台湾の指導者になることができます。したがって、我々は自らの胸襟をより広く開くべきではないかと、私は常に思うのです。

先月、私はバンクーバーに行きました。そこには（在カナダ台湾同郷会の）台湾カナダ文化基金会というものがあります。私はこの基金会をかなり評価しています。この台湾同郷会はよく文化活動を行い、台湾文化をカナダ人社会にかなり紹介しているのですが、そこが開いた座談会で、私は彼らから「中華を取り除く」という問題を突きつけられました。彼らはこう質問しました「外省人は台湾の米を食べ、台湾の水を飲み、台湾にそんなに長く住んでいるにもかかわらず、どうして中国大陸のことを忘れられないのでしょうか」と。そこで私は彼らに「あなたたちはカナダに何年くらい住んでいますか。おそらく、五年の方もいれば、十年の方もいるでしょう。もっと長く住んでいる方もいるはずですよ。あなたたちもいつも台湾のことを思っているのではないのでしょうか。我々は、同じ気持ちをもって彼らの気持ちを思えば、すぐ理解できるのではないのでしょうか。誰もが心の故郷を持っているはずですよ」と言いました。

台湾人が大統領になってから、我々はだんだん自信を持つようになり、何年間にもわたる政治闘争を経験してきました。台湾にとって、私から見れば台湾は現在、全く新しいスタート地点にあります。たとえば、選挙です。台湾にはたくさんの選挙があります。台湾人の選挙に対する観念も、時代によって変りつつあります。昔、立法委員の選挙、あるいはさまざまな地方選挙のとき、必ず大きな看板を街中に立てました。そしてその看板にはきまって清廉、果敢などの文字を書きました。しかし私はいつも候補者にこう言いました「清廉なんか、当たり前のことです。果敢なんて、誰もがそれくらいの器を持たないといけません。これらを長所というならば、誰でもいいのではないのでしょうか」と。

私はよく彼らに「宣伝のフレーズをもうちょっと面白く書くことができませんか。選挙なんか、そんなに大したことではないですよ」と言います。そして「子供にちゃんと教育しないと、言うこと聞かなくなるよ、陳水扁をちゃんと監督しないと、国はだめにしてしまうよ、というふうに書けませんか」と言うのです。

悲哀はすでに過去のものです。我々は自信をもって自らの品格を高め、あらゆるものを主体的に受け入れることによって、よりすぐれたものを作ることができるのです。我々は今からこのように信じなければなりません。

台湾では、生活という言葉に、二つの読み方があります。私にとって生活とは、ただの日常生活です。たとえば食事をする、寝ること、働くことなどです。それは非常に淡々とした幸福です。生活はこんなにも簡単で幸せなものです。しかし、台湾の中南部では生活という言葉、生死という意味で使っています。つまり生活とは、生きることと死ぬことです。生死となれば、生きることとはどんなに苦しくて難しいことかという感じを与えてくれます。人間は生きるために、毎日命がけだという印象を私は感じるのです。しかし、このような感じは台湾にとって、すでに過去のものとなっています。私は、台湾の人々が今後淡々とした日常生活を送ることができるよう、心から望んでいます。我々がもし現在、自信をもって過去の悲哀を捨て去って未来を切り開くことができたならば、これらの努力はきっと我々の次の世代において報われることができるだろうと思っています。

私は民進党が初めてテレビのコマーシャルを作る許可を得たときのことを覚えています。当時、その仕事を引き受けたのは私だけでした。制作過程では黄信介さんにもインタビューをしました。黄信介さんは非常に面白い方で、彼は言った話は今でも忘れられません。当時はまだ国民党がやりたい放題で、反政府の者を逮捕している時代でした。彼はそれに対してこう言いました「民進党はまだ四歳の子供です。もし間違ったことがあれば、ちゃんと教育すればよく、拳で頭を殴ることはないのです。このように殴られたら、バカになってしまいます」と。そして自分が民主運動に参加した理由については「私は台湾の民主運動のために家を売ったり、投獄されたりするのは、次の世代に我々と同じ苦難を味合わせたくないからだ。すべては次の世代のためだ」と語りました。

台湾は何世代かの努力によって、今やとどこまでたどり着くことができました。我々の次の世代はもはや、我々が昔経験した、歴史における誤解や寂しさ、不平等さ、コンプレックスな

どに直面する必要がありません。これで我々はより広い心をもって未来を迎えることができます。

ある日、ある新聞記者から「あなたは自分の息子にはどこの国の人になってほしいですか」と聞かれたことがあります。そこで私は彼にこう答えました「私は彼に世界の公民になってほしいが、自分が台湾人であることは忘れてほしくない。心からそう願っている」と。

これは私個人の期待です。これをもって今日の講演の終わりにしたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

映画監督呉念真氏の来日記念講演

本稿は平成17年2月20日にホテル センチュリーハイアットで行われた「日本台湾医師連合特別講演会」（主催・日本台湾医師連合）における映画監督呉念真さんの講演録です。

（文責・日本台湾医師連合）

生きて行く台湾——人々の暮らしの観点から

（日本統治時代～現代） （中文版）

我只會講最簡單的日語：「皆さんこんばんは」（大家晚安）。非常高興今天來到這裡，我剛剛忘了問一件事情，我應該講北京話，還是講台語比較好？台語嗎？台語的話，有一些電影名詞，我怕田村先生比較不知道。今天本來是準備非常長的東西，可是因為有時間的限制，我用比較簡單的方式來講。我剛算了一下，多桑（父親）這部電影，到現在為止，剛好十年。

我爸爸是在一九九〇年過逝。一九九一年的一月，我有一個機會來到東京。出發之前，我媽媽跟我說，你爸爸一直想着要去東京可是沒機會，不然你就帶他去。她就拿出一張爸爸的照片，後面夾上金紙（冥紙），叫我帶來。不知是不是我爸爸保佑，飛機靠近東京，開始降落的時候，富士山竟然出現在眼前。夕陽之下的富士山，非常漂亮。

我把爸爸的照片放在手提行李箱裡。不知道是不是行李的拉鍊沒有拉好，過海關的時候，海關問我有沒有什麼需要申報的？我說「No!」。那是一位非常年輕的海關關員。當他檢查行李時看到照片，就問我「What is this?」我突然間不曉得要如何跟他解釋。我說「This is my father, his soul」。然後，他非常恭敬地向照片敬禮。因為，我跟他說，我爸爸一直想來東京看皇宮和富士山。他死了沒機會，我帶他來。

他那個行禮，讓我很感動。我感覺是，他跟照片行禮，不是跟我爸爸行禮，是跟屬於台灣歷史裡面的一群人行禮。

很多人問我，拍這部「多桑」，是不是要紀念我爸爸？我很簡單地回答他們，「對。但是，很多朋友都知道，我要拍這部電影的動機，其實是從李登輝第一次當上了總統的時候開始的，大家都知道，台灣農曆過年，總統都會在電視上向全國的同胞講話。李登輝當總統那一年，講台語。我爸爸邊流淚，邊說台灣人終於當總統了。

我拍這支片的真正意義是想要表達我內心知道的，台灣歷史裡面的一群人。因為我們對這一群人，有很多的誤會、輕視和批評。

李登輝當總統之後，很多外省人記者就開始在報紙上說，李登輝說的北京語是跳躍式的語言？因為，他的Grammar（文法），亂七八糟。他的語法跟北京語的文法完全不一樣。這邊跳那邊，那邊跳這邊。應該先講的他放在後面講，應該後面講的他放在前面講。那些記者每天都在罵，「北京語怎麼講成這個樣子」。

我忽然發現我岳父講的北京語也完全一樣，都是跳躍式語言。他是早稻田大學畢業的。對他們來說，日文是教育語言。母語是台語。北京語對他們來說，是外來語言。所以，當一位記者用北京語向他們問問題的時候，他們會把問題翻譯成日文來理解。理解完後，他們會用日文想答案。再翻譯成北京語講出去。

就好像我們的英文不是很好。美國人問我們，Where are you going tomorrow？我們若回答說，I go to Yokohama tomorrow。這個還算標準，他還聽的懂。如果是複雜一點的翻譯文，文法就會亂七八糟。老外可能聽的懂，但是老外會感覺說，你的文法，為什麼是跳躍式的英文？也就是說，這些年輕的外省人記者，並沒有去深入這些人的歷史背景。他們忽略了這一群人出生的時候，是受日本教育。他們忽略了這一群人一夜之內必須變成中國人的事實。他們完全忽視這一段歷史。

我爸爸沒唸很多書，但是他說過一句名言。到現在我都還記得。我初中畢業，要來台北找工作。那時我書讀的不錯，不升學而直接去台北工作，我爸爸覺得可惜。他為了要安慰我，就說，書讀那麼多，有時候也沒有用，因為「あいうえお」在一夜間就遇到了「ㄅㄆㄇ」。

當我們小孩子開始唸書的時候，爸爸和媽媽若要講一些不想讓我們知道的話，都講日文。我們若要講一些不讓爸爸和媽媽知道的話，就講北京語。小時候，我爸爸經常稱讚日本很好。他習慣聽日本NHK的廣播。當他下班回來，都會打開收音機聽NHK的廣播。所以NHK廣播的音樂，我都還記得。然後，爸爸聽完後，都會翻譯給我們聽。說日本現在發生什麼事，日本有多好之類的話。我妹妹每次都會說，「漢奸。等到我年紀較大的時候，我就開始慢慢地用男人對男人的心情，去理解我爸爸那一代人的心境。我經常會感覺到他們那一群人，是台灣裡面最寂寞的一代。

我有一次跟日本人聊天。我說，你們常常在笑美國人去打越戰，留下一些戰爭孤兒。你們有沒有想到，日本佔領亞洲很多國家的時候，也留下很多文化孤兒。其實這還好，對台灣來說，更加悲哀的是，接著日本人之後來的是中國統治當局。國民政府與日本不共戴天。因此日本遺留

下來的文化，成為統治當局清算的對象。

中國對世界其他國家基本上還存留想要去瞭解的心，但是對日本就不一定。譬如說，上次那個足球比賽。中國和日本踢足球，他們一定要贏。他們若輸的話，你看他們的態度是什麼樣，你就知道了。

台灣的李登輝、我岳父、我爸爸這一代的人必須面對另外一個新的統治者的悲哀，要讓下一代的人來理解，實在是非常困難的事。

在近代歷史裡面，台灣受兩個國家的影響最大。一個是日本，一個是美國。

我從以前一直想用電影或文學的方式，用更寬的心去理解，去表現那一代與現在正在被影響的我們這一代。所以，我第一次拍電影的時候，想拍的就是多桑的故事。真正被歷史遺忘的他們這一代人的故事。這是我把電影的片名叫「多桑」的原因。但是，這部電影的英文片名叫作 A borrowed life。是借來的生命。因為，對他們這一代的人來說，出生的國家歸屬是被決定的，不是自己選擇的。教育的方式是讓人決定的，不是自己選擇的。有一天要變成另外一個國家的國民，也不是自己選擇的。整個過程，都不是他們自己選擇的。甚至到年紀大的時候，他們和下一代的衝突，文化歷史認同的衝突，也不是他們自己選擇的。所以，我是希望我們能夠透過這部電影，重新去認識台灣這一個被遺忘的，誤解的世代。

我舉一個例子。我家開始有電視，是在一九七五年。我爸爸每天都轉電視。轉轉轉。那時候電視只有三台。再怎麼轉，大部分都講北京語，他聽不懂。聽得懂的，都是女人的節目。都是一些台語連續劇和歌仔戲。每次他開電視，我們都會被嚇死。因為當他轉不到他要看的節目，他會很生氣地敲打電視。當他關電視時經常會講，「去死啦」，來表示怒氣。

有一次，記者要訪問礦工，跑到我家。拿一張名片給我爸爸說，「我是聯合報記者，我想問有關礦工的事。結果你知道我爸爸怎麼回答人家嗎？他說，台灣自從公論報被禁掉之後，就沒報紙了，怎麼會有記者這個行業。所以，有時候你會覺得，是不是他們的歷史生命或文化背景，讓他們活在一個不得不寂寞的世界裡面。

相對於男性的另外一群人，也就是那一代的台灣女性。我覺得那是非常有趣的一群人。那是不僅保留台灣文化，而且還很自在地把台灣歷史所走過的異族文化都保留下來的一群人。那一群人最偉大。她們就是台灣現在差不多七十至八十歲的阿嬤。

我們最近常在說台灣文化的問題。有些學者喜歡把台灣文化寫的很難。寫台灣文化到底是什麼文化，應該是什麼文化。而文化對我來說，其實只是生活的種種表現的形式之一。

相對於像我爸爸那一代受日本教育，那麼堅決，那麼固守的那些人，台灣阿嬤顯的非常柔和。她們其實是很有自信，而且非常柔軟地把台灣文化包容起來的一群人。這幾年來，這種體認越來越深。我用我丈母娘來做例子。她在日本時代是高中畢業的。也算是高級知識份子。剛開始，也是和我岳父都講日語和台語。她不太學北京語，因為她認為北京語跟她沒關係。

但是，有一陣子她開始學北京語了。為什麼？因為孫子大家都長大了。這些受國民政府教育的孫子只會講北京語。每個人北京語講的比台語好。不僅教育就連電視大部分也講北京語。甚至旁邊的人也都講北京語。所以他們沒有機會講台語了。

我最尊敬的李鴻禧教授，講過一句很有趣的話。他說，「一些爸爸為台灣拼生死，生一些鬼崽子不會講台語。阿公和孫子說話只會說幾句簡單的北京語。雙方溝通不良，阿公也只好放棄跟孫子溝通。不過，阿嬤不一樣。阿嬤為了要和孫子講話，她會認真去學北京語。

但是，她是不是學的很好呢？答案是沒有。她並沒有學的很好。但很有自信。她學三句，就認為她會講了。在座的各位可能只有台灣人才聽的懂。譬如，我有一位姪子，想要吃東西，他就跟阿嬤講。阿嬤聽完就去煮了。煮完端出來，他卻又不吃。阿嬤那時就罵他說，你不是要出（吃），阿嬤煮給你出（吃），你又不吃（吃），你還說要出（吃）。我丈母娘的發音可以說非常不標準。

有一次，她去參加插花班。問卷調查上面有[語言]一欄。她看完之後，就寫日語台語會話精通，書寫精通。北京語會話和書寫，她寫尚可。她很有自信，她認為她的北京語已經沒問題。她已經學會了。所以，她去鎮公所辦事情時，都會用自己所認為的北京語去跟職員溝通。上個月，我和她一起看電視，阿扁正在電視上講話，她竟然跟我說，阿扁怎麼講台灣國語。

這還不打緊，這幾年台灣改變很多。我丈母娘又得面臨另外的一樣挑戰。岳父有十一個小孩。六個男的，五個女的。一大堆都在國外，大部分住在美國。住在美國的那些外甥和外甥女們都漸漸地長大了。他們暑假都會回來台灣。他們比較喜歡和我在一起，因為我沒像他們爸爸那麼嚴肅。我比較愛開玩笑，所以他們都會來我家住。有連續好幾年我都在教他們台灣的打折。台灣的打折和美國不同。我每次都要跟他們說，七折 not means 70% off. It's 30% off. 就這樣子教了好幾年。我丈母娘面對完在台灣講北京語的孫子之後，接下來是這些新的ABC（美國出生長大的孫子們）。

這些ABC，台語講的亂糟糟，北京語講的也亂糟糟，最行的就是英文。阿嬤要怎麼樣跟他們溝通？我岳父大人光只會一句 morning。他說一句 morning 就沒事了。不過阿嬤不是。阿嬤要跟每個孫子溝通，她非得記住那些孫子的外國名字不可。她想要記，卻又記不住。最後她發明出一種方法，她用台灣的叫法來叫孫子們的英文名字。

比如說，有一個孩子叫 Tony。當她叫 Tony 的時候，總是叫 Tonia。Tonia 是台灣人叫小孩子的方法。人名後面加一個阿的音。就像我們叫欽阿，後面有一個阿字。她也照那個模式來叫 Tony 這個孫子。另外還有一個叫 Maiko，她經常叫他賣衣賣褲。Jenifer 就叫煎蕃薯。她會把它加上意思之後再來叫。她不會覺得這種叫法有什麼錯，因為她很有自信。

她把我們這些女婿都叫來。那種受過日本教育的媽媽，很愛女婿們都很快樂。叫我們在一起打麻將。她的女婿們，有外省的，也有本省的。當我們大家在打麻將的時候，小孩子就在那裡吵鬧。這時阿嬤就用她的方法去處理了。阿嬤就把小孩七八個都帶出去逛街買東西。差不多一兩個鐘頭，又帶回來。回來後，小孩子又開始用英文在那裡吵鬧，不知在講些什麼。阿嬤聽了就開始生氣了。她一直叫 come on come on come on，把最小的孫子叫來。那個小孩過來後，她就用

台灣話罵，你真的壞死了，真的壞死了。下面正在打牌的我們聽了都笑的不停。她說，你 hamburger 也給我吃了。你 hotdog 也給我吃了。你在 com 什麼 plain？

她有辦法把 complain 這個字，拆成兩個字來講。我聽了之後就跟其他三個人說，媽媽發明了一個新的名詞，那一句 com 什麼 plain，以後會變成台灣的一部分。從這個觀點來看，我感覺說，當一個國家或是一個地方，它開始有自信之後，它就會把所有歷史的時空在這個國家或地方所留下來的文化，變成自己文化的一部分。而且，運用自如，一點都不會感覺到自卑。

因此，我們可以從中感覺到，台灣已經慢慢地產生一種新的文化。不管是外來語言還是文化，台灣都能吸收自如。這個東西並不是一個學者或知識份子。也不是一個統治者有辦法去給它規定的。

我們若仔細觀察現在台灣人所講的台語，會發現到，台語裡面出現很多外來語。譬如說，你在台北坐計程車，你若跟司機說，今天生意好不好？他會回答說，「atari（生意）不錯。若再問他，每天都不錯嗎？他會回答說，「沒啦，chyansu、chyansu（機會、機會）」。話中的 atari，chyansu 這些話，都已經變成台語的一部分。相同的，台語很多話，現在已經變成中文的一部分。比如說 duong suang（當選）。在中文裡面寫成冰凍的凍，蒜頭的蒜。還有 guong gu（損龜：沒被選上之意，或沒有成功之意）。中文寫成損龜。

所以，當我們有自信之後，有一些外來的東西會變成自己的東西。我們可以拿來用，然後毫不自卑。我們不自卑的時候，一個新的，無論是文化或語言的生命就會自動產生。

我舉個例給大家聽。本來，台灣的原住民都不太喜歡人家叫他們原住民。原住民希望大家最好不要叫他們原住民。比如有一個我最有意見的原住民議員，叫金素梅。她以前是一位演員。以前你若叫她原住民，她會很生氣。不過，她現在自許是原住民代言人。

台灣現在隨著社會多元化的轉變而慢慢地開放。維持原住民的地位和傳統亦是其中一環。因此他們也隨著政策的開放，而漸漸地擁有自己的主體性。現在每個原住民都很有自信地去講他們原住民的話。有一年，在屏東排灣族村落拍戲的時候，我特別去注意他們的廣播。以前村長在廣播時，都會用北京語。現在，因為要強調他們的原住民精神，都講原住民的話。但是，他們講原住民的話，我大概都知道他們在說什麼。因為，有很多話是外來語，是原住民語本身裡面沒有的。譬如說，sensei（醫生）、byoin（病院）等。這些都是日本時代才傳入的。都變成他們排灣族的話。很多北京語的專有名詞，也變成他們的話。

原住民很早就起來，大概七點多的時候，村長開始廣播。譬如他這樣說，「阿～不啦不啦背啦背啦，十點鐘。阿～嘩利八啦嘩利八啦，身分證。喔～不加嘩啦不加不加，民衆服務社。阿～蒂～捉啦捉啦，檢查肛門。就這樣，在他們話裡頭有很多都是外來語。也就是說，當他們有自信的時候，他們會把外來的東西拿來用，而那些話馬上就會變成他們自己的。

我朋友常說，台灣不知是好運還是歹運？我爸爸以前也常常講類似的話。他說，「台灣，你不然就靠近大陸一點，不然就靠近日本一點，偏偏要在海中間。這麼多國家都來參與過。但是，很多東西自然而然地就留在台灣了。當鐵蹄踏過後就有兩種狀況。先是滿目創痍，然後是百花盛

開。

我們若注意台灣一些地名，可以發現每個地名都有它的歷史與來源。每個地名都有它的故事。比如說，台灣北部有一個地名，叫做三貂嶺。以前，我們的外省老師跟我們解釋說，為什麼叫三貂嶺，那是因為山上有三隻貂。大家都知道，貂是寒帶動物，台灣那麼熱的地方，怎麼會有三隻貂，若有的話豈不是怪物。之後我才瞭解，那是西班牙人佔領那個地方的時候，給它取的名字。叫那個地方為 San Diego（聖地牙哥）。

你去查資料，全世界西班牙人命名叫 San Diego（聖地牙哥）的，超過一百個。葡萄牙人若看到這島不錯就會讚嘆說，「Formosa（美麗之島）」。全世界叫美麗之島的，超過兩百個。基隆有一個地方，叫做三沙灣。那個話怎麼來的呢？來自聖薩爾瓦多。

當然，日本人來佔領台灣的時候，他們也留下很多地名。譬如說，高雄是最有名的，Takao（打狗）變成高雄。這不有趣。東部有一些地名，非常典雅。有個地方叫舞鶴。鶴在跳舞的姿態變成地名。那些都是日本人取的。

國民政府來台之後，那就更多類似的例子。譬如中正路、中山路、復興鄉等等。當美國勢力開始上台的時候，我們有羅斯福路。現在若從台北地名來看，我們會發現，這些地名很自然地融合在一起。譬如說，我們的大稻埕，那是古早就有的地名。另外我們有個西門町。現在又加了一個華納威秀。這些地名無論是屬於任何地方的任何勢力，現在都形成協和體。

我們的地名很自然地合而為一。民間也就是很自然地去接受並使用它。以前人民應統治者要求，會把原地名改成執政者想要的地名。現在民間根本沒理睬執政者的要求。尤其民主化之後，文化的形成，主要的是來自民間。是由下而上，不可能是由上而下的。地名的更改幾乎不可能再像從前那樣。

但是，這演變的過程，有時候也會讓我們感覺到上一代人的一種寂寞。有一次，我和丈母娘一起看日本 NHK 的節目。忽然間她跟我說，「那女的在講什麼？」因為，話中冒出一句 Communication。她跟我說，「這個女的在講什麼日語？」我說，人家是日本人，講的當然是日語。她說，她講那種聽不懂的日語。我跟她解釋，那個英文發音叫 Communication。意思是溝通和交通等等。那時我第一次從她臉上看到那種表情——一種寂寞，又有點悲哀的表情。因為，以前日本的一切，是他們那一代解釋給我們聽的。解釋權在他們的手上。但是，她忽然發現，下一代人知道的日本東西，她竟然不知道。那種寂寞是可以容易想像的。

農曆過年，那些住在美國的小孩和孫子都會回來。近年來我丈母娘，身體並不是很好，但她覺得應該讓那些美國孫子們去了解台灣風景。所以，她就包一台遊覽車，載二三十個人去阿里山與日月潭等地觀光。那時我正好有事情，不能和他們去。自己一個人待在家裡看書。他們回來的時候，我小舅子就問我說，「你過年都在做什麼？」我說，我在家看書。接著又問我說，「你看什麼書？好不好看？」我說，「看村上春樹的《After Dark》，宮部美幸的《火車》，還有一本宮本輝的《流轉之海》還沒看完。他就問我，哪一本比較好看？我回答說，「村上春樹那一本很難看，你別買。我丈母娘在旁邊聽一聽就說，「我們以前看日本書，都說我們是漢奸。你現在看日本書，又去買日本的漫畫來拍電視劇。丈母娘會這麼說是因為我的公司最近買了弘兼憲史的漫

畫，正準備拍電視劇。

當統治者的文化政策漸漸開放的時候，民間就會開始有自信去做一些事情。因此很多外來的東西，都會在這種環境之下慢慢地演變成自己的東西。我們有時候會感覺到，有文化自卑感的國家或地方，去接受外國東西的時候，若沒有經過一種主體性選擇，我們會很容易地全面性去接受它。當我們有自主性選擇的時候，就能自在地取捨外來文化的優缺點。

台灣現在最大的問題是當時統治者所留下的極端文化政策。國民政府當初對日本，有很大的排斥性，所以對日本的文化是全面性的排斥。但是，面對之後的強而有力的美國文化，卻是全面性的接受。台灣百分之八十以上的留學生去的國家是美國。所以，台灣把美國的東西搬進來時，大部分是沒有選擇性地把美國東西百分之百的搬進來。

我舉一個例子，可能你們平時都不太注意。台北市那麼小的地方，路都比日本還寬。因為，它的寬度，是以美國車的 size（尺寸）為標準。我們台北有一個奇蹟就是，兩條路可以走四台車。另外停車場劃的格子，也比較大格。兩個格子可以擠三台車。最恐怖的是建築。美國那種大陸性氣候，下雨比較少。所以，我們一些去美國學建築的留學生，回來建房子，都少加一樣東西。叫做 hisashi（遮雨棚）。台灣是多雨的地方，一下雨，一定會潑到窗門。房子有 hisashi（遮雨棚）遮出去，雨才不會潑進來。現在，學美國建築的人，大部分都會把 hisashi（遮雨棚）拿掉。由於現在的建材都是 alumi（鋁門窗）跟混泥土，台灣無論多漂亮的家，一百間裡面，有九十間都有壁癌。

台灣房子的牆壁大部分是漆油漆的，所以油漆都會因為沒有遮雨棚而剝落。裡面的混泥土也會跟著跑出來。非常醜。但是台灣人有一個好處，會因地制宜。自己會貼遮雨棚。不過沒幾年，一間設計得很漂亮的房子，可能上面就會堆滿鳥糞。所以，我常常會感覺到，作為一個知識份子，其實最重要的東西是瞭解。我們必須瞭解環境或生活文化對我們自身的影響。這是非常重要的。

我有一次跟外省朋友說，我一輩子和我爸爸講的話，不會超過兩百句。他回答我說，那你童年一定很不快樂。他會如此回答，是因為他是用他的標準來看我。大家都知道台灣外省的爸爸，和孩子們非常親近。如果我爸爸有一天忽然間跟我這種年紀的兒子非常親近的話，我會覺得我爸爸瘋了。那是因為他們的教育背景和生長環境不一樣，所以感情的表現方式也不同。

譬如說，有時候看現在台灣年輕人寫的 kyakuhon（脚本），我就會想笑。上一代怎麼會有他們寫的那種台灣人？

我舉一個例。我爸爸和我媽媽那一代，常常用相罵來代表愛情。比如，我爸爸年紀大概五十幾歲時，身體就開始不好，比較不能工作。那一陣子晚上經常出去打麻將。打麻將回來時剛好下雨，我爸爸濕淋淋地跑回來。回來門一打開，非常吵。我媽媽聽到聲音就起來拿毛巾。她拿毛巾遞給我爸爸後，就一直罵，「淋死算了，淋死算了。你淋一淋，明天就感冒，感冒就住院。爸爸一開始擦頭髮，媽媽又開始罵，「若生病，煩惱的都是我們，你在床上躺著，叫著叫著就沒事，結果照顧的都是我們。那時我剛好在家裡。她當然要把一些恩惠給我。她就說，「你兒子若在台北，都得趕回來看你。事情都別做，光回來看你就夠了。我爸爸聽完之後，把毛巾丟在地上，回

了一句，「哭爸。我都會跟那些外省朋友解釋說，那句「哭爸」是「Miss, thank you!」的意思。

其實那是另外一種感情的表現方式。我們必須去瞭解他們那一代人表達感情的方式。最近我常常用這種方式，去表現一些東西。

考初中時，我考上的是第一志願。是全村十幾年來，第一位考上初中的。我們里長那時廣播說，我們村裡誰考中基隆中學。有人聽了就去恭賀我爸爸。我爸爸卻回答說，長大才知道。有一天，我早上起來看到桌上有一隻新鋼筆。我就猜那個鋼筆可能是我爸爸晚上買回來的。爸爸在睡覺，沒人敢去問，大家都在猜，那一隻到底是要買給誰的。小妹在那裡大小聲地吵著要新的鋼筆。我爸爸在裡面出聲說，「妳幾歲，用什麼鋼筆」。

那時我才知道，這是爸爸要恭喜我考上初中買的禮物。他不可能稱讚我。他買一個禮品給我代表稱讚。當我很高興地拆鋼筆盒子時，他在裡面很兇地說，「那個東西很貴，你若弄壞，試試看。我感覺到，每個人表達感情的方式，都不一樣。每個地方、每個族群、每個人所受的教育不同，其表現感情的方式也不一樣。我們每個人要學會用瞭解的方式去接受。有一家電子公司，叫我拍一支促銷電視廣告。就是說，你若買這家公司的音響，這家電子公司會附加無期限保養。我跟電子公司老闆說用一種方法，來表達剛剛我說的那種概念。他就說，這樣人家可以瞭解嗎？我說，試看看。

我設計了一個故事：有一位鄉下小孩，趁爸爸不在，偷聽錄音帶。邊聽音樂邊跳舞非常的高興。當他發現爸爸回來時，慌慌張張地把音響關掉。結果那台機器批哩啪拉的一聲，就壞掉了。tape 糾成一團。之後小孩就假裝去唸書。他爸爸遠遠就聽到音樂聲，知道小孩在玩弄音響。進門之就罵他說，「書不讀，每天都在搞什麼東西。他爸爸非常兇。小孩拿成績單給他爸爸看。成績確實是很好。他爸爸看看，也沒說什麼，也沒讚美他。過幾天他爸爸就跑去那家電子公司買一台音響。回來時，小孩正在寫功課。他看一看就把音響往桌上放著說，「這東西很貴，你若弄壞了，就試試看。他媽媽聽了就說，「那不是全國電子買的嗎？有終身免費保養，壞了有什麼關係」。他爸爸就回答說「我現在正在教小孩，你別插嘴」。整個廣告內容是這個樣子。

這個廣告出來之後，很多看過這廣告的台灣人都來跟我說，那廣告好有意思。我爸爸就真的是那樣子。但是，外省的節目 news98，開了一個專題節目，罵這個廣告是台灣的大男人主義。

這個經驗給我一個教訓。如果我們開放我們的胸襟，我們有自信的時候，就可以反省歷史的錯誤。就可以接受所有的東西。我們若把整個心都關起來，你就永遠只會看到別人的不好。你就永遠只會去排斥別人的東西。台灣經過這麼多年的奮鬥，以前是少數人統治多數人，現在時代已經慢慢地再轉變。我們多數的族群，已經可以當領導者。我的感覺是，當我們的心胸打的越開，我們所得到的就會更多。

上個月，我去了一趟溫哥華。溫哥華有一個台灣同鄉會的加台文化基金會。我覺得他們做的非常好。這個台灣同鄉會在加拿大社區裡面做許多文化活動。我在座談會的時候，他們問台灣的「去中國化問題。並且問，「那些外省人在台灣住這麼久，吃這麼久台灣的米，喝這麼多台灣的水，為什麼還是心心唸唸中國大陸呢？」我反問他們「你們在加拿大住多久了？有五年的，有十年的，也有二十年的。你們心唸的不也是台灣嗎？我們應該用同樣的心情去接受他們。因為，

每個人，都有一個心的故鄉。

對我來說，台灣現在才是一個全新的開始。自從台灣人當了總統之後，台灣整體的自信都已呈現。經過許多年的政治鬥爭，大家無不心想台灣，無不思索台灣的未來。對台灣而言，現在正是一個新的啓程。譬如說，台灣有很多選舉。整個選舉的觀念，都在改變。以前立委選舉或是其他選舉，都會放一塊 kanban(看板)，上面寫著清廉、敢拼、敢講等。我每次都會跟一些候選人說，「清廉是應當的。敢拼！台灣人現在誰不敢拼。敢講，台灣人現在誰都敢講，那個叫優點？」我常想，我們不能再幽默一點，有趣一點嗎？別把選舉看的那麼嚴重。我甚至去給國民黨的候選人建議，你可以給它寫成，「小孩不打不會乖，阿扁不打會歪」。

從現在開始，我們應該相信悲情已是過去的事情。我們的自信已開始呈現。我們的格局，我們可以接受，可以創作的東西，將會越來越廣闊。

在台灣，生活這兩個字有兩種唸法。生活對我來說，只是一種平常的生活。如吃飯、起床、工作等等。很平淡而且很幸福。但是，中南部有地方把生活唸成是一種死活的意思。生死或者是死活，給我感覺是，生存本身是那麼困苦的一件事情，要活下去是要那麼那麼奮鬥的事情。我們每天為了生活都得在那裡奮鬥。但是，我的感覺是生活(生死或死活)，對台灣而言已經慢慢地變成過去。我們希望台灣今後的生活，是那麼平淡的幸福的。我常常覺得，當有一天我們台灣有自信去接受很多事情之時，當我們的悲情都丟到後面之時，我們今日每天所做的事情，可以說都是為了我們的下一代。

民進黨第一次可以拍電視廣告時，沒人敢拍。接下那個工作的人就是我。我還記得，民進黨第一次的拍片是訪問黃信介先生。他講話非常有趣。他說過的兩句話，我到現在還沒有忘記。那時國民黨常抓人。他說「民進黨不過是四歲小孩，若做了錯事，用講的就好，不要直接往頭上打，打久會傻。當我問他「黃先生，你為了台灣的民主運動賣田賣地，又被抓去關，你是為了什麼呢？」他回答說「若不是為了下一代，我們這一代受苦受難，都沒有意義了」。

台灣經過這麼多代的努力，終於有今日的成果。我希望我們的下一代不用再去面對我們以前遇過的，那些歷史上的誤解、寂寞、不平等，跟自卑。我希望我們將可以用更自信，更開闊的心去接受任何一切東西。

有一位記者問我說，你希望你兒子是哪裡人？我跟他說「我希望他是一個世界公民，但是他不能忘記他是台灣人」。這是我個人的期望，也是今天演講最後的 ending。多謝大家。

台灣迴響

岡山文章

——漢字的魔術——

不管到世界上的甚麼地方，台灣人看到漢字，大概會反射性地用源自滿州女真族的マンダリン (mandarin) (台灣的「國語」) 來拼音，例如提起日本前首相就稱呼 Shau Chen (小泉——Koizumi) 首相。到北海道玩，就會說 Tsahuan (札幌——Sapporo) 的拉麵很好吃。

北海道的許多地名，都是古來當地居民アイヌ (Ainu) 族留下來的呼稱，用日本漢字及日文發音來表示，以補足アイヌ語沒有文字的缺點，並保持文化傳統。像稚內 (Wakkanai) 是來自「飲料水的 (Waka) 小川 (nai)」。女滿別 (Memambetsu) 是來自「泉池 (mem) 有 (an) 川 (pet)」 (有泉水的川河)。北邊的鄂霍次克海 (Sea of Okhotsk) 則是從女真語的 Akhot (大) 及 Okhota (川) 演變來的。

如果瞭解這些地名的由來及原語的意義，不但可以在腦子裡描出當地的山水地形，還可以進一步飛翔於人類文明發展的羅曼史中。我們可以想像：北海道是太古以來出自中亞的蒙古人及遠緣親戚的女真族和從日本本州北上、頑固地拒絕彌生文化的繩文人的後代アイヌ族的文化衝激之地。-----

故鄉的台灣高雄也有類似之處。至少 400 多年前高雄這塊大地被原住民稱為 Takau，來自台灣海峽對岸的移民即以漢字「打狗」及閩南發音來表示。日治時代，用日文漢字及發音來補完台灣話沒文字的弱點，稱 Takau 為高雄 (Takao)，可是這個脈脈相承、持續至少 400 年以上的聲響在第二次世界大戰之後不得不消失，因為它變成了 Kaohsiung。

高中時代的歷史課程中，五胡十六國的時期出現許多北方異族的呼稱，例如匈奴、鮮卑、氐、羌、羯、突厥等等，還沒把這些字眼暗記成熟之前，腦海裡已鮮明地浮現出許多類似有毒有刺的爬蟲類的野蠻人像。隨著課業的進展，一喜一憂，曾幾何時自己也變成了充滿正義感、逐鹿中原的勤王之士。等到老師教完唐朝貞觀之治時，自己的頭後方也出現一輪眩目的中華光暈。

歷史授業使我們忘記了自己是來自南方蠻夷化外之地，也忽略了去探討「五胡亂華」中的五胡人流落何方？等到發現唐太宗李世民是鮮卑族時，才意識到該去尋找那些漢武帝統治下的漢人

都躲到那裡去了？根據西元二年的統計，漢朝的總人口大約有六千萬人，可是在多年兵荒馬亂及稻作不振、全民飢饉之下，西元 189 年漢人只剩下 15 分之 1 的四百萬人而已。

中華「帝國」這個字眼很容易讓讀者連想希臘、羅馬，進而引起讀者對西方這兩大「帝國」產生天大的誤解。其實希臘的城市市民享有民主權利，每年一次雅典市民可以在陶片上寫下不受歡迎的為政者的名字投入甕中，全市民的「投票」結果可以放逐當權者。一般市井小民可以和蘇格拉底及其弟子們自由公開議論哲學。羅馬帝國的領導者是由元老院選出（其地位相當於議會的議長），所以羅馬帝國的歷史中，有非州出身的「皇帝」，羅馬市民可以隨時集合在 Agora（市民廣場）公開自由辯論，發表各種意見，當然最熱門的是政治問題。現在成為觀光名所的意大利羅馬及地中海沿岸的各圓形鬥技場（Colosseum）都是羅馬「皇帝」為了博取羅馬人民的歡心及支持才製造出來的產物。這些傳統也是近代西洋自由、民主政治的基石。

去年，學術演講會後、開車回家的途中，高醫的大前輩簡德珍醫師跟我說，高醫創立時的校名是「高雄醫學院」，英文正式名稱叫「Takau Medical College」，因為創校者杜聰明博士一心想要辦一家台灣人的醫學院，特別取地名「打狗（Takau）」發音為學校的名稱。很可惜，五、六年後英文校名即被教育部強迫改名為「Kaohsiung Medical College」。

聽了這段小小的軼事，除了一些哀愁外，我不能壓制從心底湧上來的做為高醫畢業生的驕傲和感動。-----

——世界上僅有的一朵花——

「花店裡擺設著許許多多、各色各樣的花，有小小的花朵，也有開得很大的花朵，但是就是找不到兩朵同樣的花。不用苦惱也不必費神去找那一朵花最漂亮，因為每一朵花都有它獨特的風姿，每一朵花都是值得珍惜的世界上僅有的一朵花」

「世界上僅有的一朵花」是 2003 年日本全國風靡一時的歌曲，也許大家記憶猶新，那年的 NHK 紅白歌唱合戰就在 SMAP 熱唱這支曲子的高潮中結束。除夕的夜半鐘聲中，我想起以前東京寄宿時候的大樓管理人。他，50 多歲，長得小小的，前頭部的毛髮稀疏的，有些閃光，掛著一付類似父親的同窓會紀念照片中的黑框圓形眼鏡。臉上總是帶著憨厚的笑容，手中拿著掃把。每天早上出門時的互道「早安！」，就好像台灣彰基醫院時代早朝臨床討論會前的晨禱一樣，幫我上工作前的禱條。他就是歌詞中的一朵小花，雖然不起眼，但是偶而沒遇到他，那一天就像少了一樣東西似的，做事不起勁。下班回家，大樓廊下一絲不染的地板，晚上拿垃圾袋到地下室放置時，沒有異臭的空氣、處理場的井井有條，都會使我想起他每天揮著汗水、走來走去清掃地面的背影。我想全大樓的居民都感激他給我們舒適的生活環境。

2002 年夏天幾位朋友一起去波羅的海東岸三小國旅行，從 Russia 的聖彼得堡搭乘巴士往西出發，正午之前渡過跨在 Narva 川上的橋樑，即進入最北端的 Estonia（エストニア）。三小國東鄰 Russia（ロシア），南接波蘭及德國，自中世以來 800 年不斷地受到近鄰大國的侵略。一直到 1991 年 9 月才正式獨立。

旅程中，當地的人知道我們幾位是從台灣來的時候，他們的第一個反應都是「Oh! Ye~s Taiwan! Tibet（西藏）！」畢竟是歷史上同樣地歷盡滄桑的民族，互相之間，不用多說話，馬上溝通！接下來的第二句話就是：「我誠心地希望台灣儘快獨立！God bless you！」聽了這些會話的一位同行的日本造船工程師很感慨地說：「世界上的每個國家、民族、地方，都有它獨特的歷史、社會、文化，而這些東西都是人類幾千年来生活智慧日積月累的結晶，非常需要大家共同努力來維護，怎麼可以併吞、統一呢？譬如說，我們來到波羅的海三個國家，如果每天就只

有白米飯可以吃、味噌湯可以喝、櫻花可以觀賞的話，那就不必千里迢迢來到這裡了。世界各地有各種顏色、不同種類的花，這世界才會生氣盎然」

多年來，著名的國際影星 Harrison Ford、Richard Gere 等多位藝術家一直努力地喚起全世界的輿論來支持西藏獨立，因為西藏和台灣一樣也是世界中的「一朵唯一的小花」。

旅行的最後 3 天是 Lietuva（立陶宛）——リトアニア，它曾經屬於波蘭的一部分，從 1914 年第一次世界大戰爆發後受到德國、波蘭及蘇聯三國將近 80 年的占領統治。首都 Vilnius（ウイリニユス）的徒步參觀中，我請教立陶宛導遊（30 多歲）一個問題：「立陶宛國民對這些占領國有甚麼感想？」話出了口，才覺得問得是否不太妥當。

「這三個國家中，我們很喜歡而且尊敬德國人，至於波蘭人和蘇聯人都很壞」

沒有預料到他會這麼回答。一瞬之間，懷疑自己的耳朵是不是聽錯了，因為，2 個小時前他剛帶我們去看第二次世界大戰中德國飛機投下炸彈的現場。

「為甚麼？」

「因為波蘭和蘇聯禁止我們使用立陶宛話、廢止立陶宛的宗教行事及歷史、文化教育，只有德國人尊重並保存我們的語言、文化、歷史及宗教」-----這一段話，使我連想起這和台灣人对日本人有親近感的現象，是不是有異曲同工之處？

這兩年回台北時都住在君悅大飯店，除了離 101 很近之外，最重要的是它有豐盛、好吃的早餐，特別是台式古早味的清粥及各種小菜-----，有一次，一位又高又壯的白人也跟著我拿鹹鴨蛋、醬油冬瓜、甜麵筋時，我看了看他，他笑了笑跟我眨眼，我想，也許他也是一位像那日本工程師說的會欣賞台灣這朵世界中僅有的小花的外國朋友——。

——歷史為鏡子——

多年來中國要人來到日本一定祭起「歷史為鏡子」的上方寶劍，而日本政府馬上敲打木魚，誦唸「深深地反省」的般若心經。這一來一往的扠酬，要持續到甚麼時候？到底「歷史「歷史做為鏡子」的真義究竟在那裡？

剛來日本時，每次逛書店，總會有個疑問，為甚麼有那麼多有關中國歷史及民間傳說的日文小說？！單只三國演義就有數位作家寫的各種版本，而且可以賣好幾刷。此外，還有水滸傳、西遊記、楊家將-----等等，全都是日本作家的 original 著作，不是翻譯本，對於離開台灣不久的我，這實在是一大不可思議。再怎麼想，三國時代就是關羽、張飛、劉備三人結拜兄弟-----的一連串故事，諸葛亮就是軍師孔明，這些都是歷史上鐵的事實，還有甚麼好寫的？可是翻開書頁，壯大的山河、屈折的歷史變遷、活生生的人物描寫，情節的緊湊，的確是引人入勝，非常有趣！

歷史是戰勝者寫下來的東西，等於是某種程度的片面之詞。因為，不論古今，世界各國的統治者總是免不了忽略對自己、自國不利的描寫。三國演義是一千多年前發生的事；現代作家可以用獨特的觀點、豐富的感性、自由的想像及文學技巧，配合一些新發現的史料和被忽視、遺忘的史實，從新的角度來表現那個時代的人情愛憎、權力鬭爭的人間悲喜劇，難怪各版小說都成為暢銷書。

歷史是人類發明文字、語言之後才獲得的寶物，也因此人類才開始有別於其他的生物。從此人類開始有文明、經驗的蓄積，以及綿綿不斷的進化。

我和內人（鄭）第一次出席醫師會在一家日本料亭舉辦的聚餐晚宴中，我們拜會的一位年長

的醫師（議長）牽著我的手說：「我知道岡山先生是 Takao 医学院的畢業生，大家都很歡迎先生加入我們的行列，不過，我心中一直有個疙瘩，岡山太太是中國醫藥學院的畢業生，是中國人嗎？」我嚇了一跳，立刻回答說：「不是，是台灣人」，他滿臉困惑的表情，問我：「中國醫藥學院是在上海或是北京？」我趕緊說：「不是！不是！」馬上拿出紙和筆劃台灣地圖，手指台灣西部中央位置，向他解釋：「中國醫藥學院在台中」好說歹說地，弄了半天，他終於接受了我的說明。臉上換成開朗的笑容，吩咐料亭女將拿三個酒盃來，當場三個人圍成圓形，一隻手互相搭肩，拿著酒盃的手鉤在一起，一起乾杯。他很高興地說：「台灣人的話，我就可以把心交給兩位了。」當天晚上，莫名其妙地喝得酩酊大醉，第二天早上醒來，雖然有點頭痛，我開始想「台灣人和中國人有甚麼不同？」

台灣人天生樂天達觀，具有不與人斤斤計較的原始習性；還有海洋民族的氣質，濕濕地人情味很濃，有些人攜帶一点点西班牙人、荷蘭人的血統，但絕大部分的人都擁有不畏離鄉背井、勇敢地到天涯海角冒險創業的遺傳子。

每一次小泉首相到靖國神社參拜，韓國人和中國人就跳起來，到處集會、示威遊行、燒日本國旗。和韓國人一樣體驗過日本統治的台灣人，完全沒有激動的反應。雖然台灣的老前輩們到今天還埋怨日治時代被當做三等國民的苦痛。

台灣島上有歷史的延續；從台南的赤崁樓、淡水的紅毛城、高雄的「打狗英國領事館、鹿港的天后宮、嘉南大圳的「八田與一紀念像、芝山巖的「六士先生之墓、到台北的「二二八紀念館」等等，再三再四的改朝換代也不曾發生過島民殺人放火、或以暴力破壞建築物的事件。

歷史的真義是甚麼？例如「日露戰爭」的歷史，日本人的描寫一定和俄羅斯人不一樣，因為對於同樣的一件事，人與人、國與國之間，立場不同，看法絕對不可能一樣，所以「歷史」的真義不是要別人反省，應該是「反省自己」。

台灣四百年的歷史中歷經種種浩劫，台灣人不但不採取抹殺或故意遺忘那些屈辱或不愉快的往事的態度，反而接受整個歷史的真實；包括喜劇和悲劇，由此台灣人去分享日治時代近代化的喜悅，也體會二二八事件犧牲者及海外黑名單的諸前輩的苦心及鬥志。從這些歷史的「體驗」中找出「自己的由來」和「現在的自己」，進一步追求「歷史為鏡子」的究極奧義——創造歷史——那就是台灣島上的每個「我」「我們」開始去創造台灣的歷史，一步一步地把台灣帶到全台灣人可以享受幸福快樂的人權、民主、自由的國家。

去年回台灣旅遊，一大早搭火車上祝山看日出，阿里山風景區幾乎都是中國旅客，導遊告訴我們：「每次介紹日月潭的水力發電廠、阿里山的高山鐵道是日本人建設的時候，這些中國顧客都會生氣地說『你給我閉口，不要在我面前提日本人-----』」鄭在旁邊忍不住說：「大老遠來到台灣阿里山，也不想瞭解一下台灣的歷史，不是很可惜嗎？」導遊笑了笑說：「下次安排走南橫，我帶大家去台東看有 3000~5000 年歷史的卑南文化公園遺跡。——」

說的也是，歷史不僅是反省，也是追尋、思考，然後才能創造。

白子戰爭

陳維斌（田川博章）

台灣前途的七條歧路

中國有數百發的飛彈對準著台灣，而台灣當然也有飛彈對準著中國。雖然如此，「台海戰爭」對於海峽兩岸的人民來說，都是極力想要避開的一著棋，不到萬不得已，相信沒有人願意輕易引起戰端。台海戰爭發生的可能性，如果在不預設立場的情況下來推想台灣前途的幾個歧路，便可以針對各條歧路一一探討。

1. 台灣獨立。

獨立以後引起中國武力犯台，台海戰爭爆發。

2. 台灣宣佈統一。

統一宣言以後引起台灣內戰，中國派兵制壓台灣。

3. 共產黨政權長期安定，兩岸維持現狀到中國的經濟成長超越民族主義。

中國承認台灣民主自決。

4. 共產黨政權長期安定，兩岸維持現狀到中國的民族主義超越經濟掛帥。

武力犯台。

5. 共產黨政權不穩，台灣抓住時機宣布獨立。

共產黨暫時自顧不暇，但等到政權穩定後犯台。

6. 共產黨政權不穩，台灣抓住時機宣布獨立。

共產黨垮台，並產生民主新政權，承認台灣獨立。

7. 共產黨政權不穩，並且以軍事統一台灣做為最後的掙扎手段。

台海戰爭爆發。

那一條路擁有維持和平的最高機率

以上在不考慮任何主觀條件的情況下，首先把台灣的前途分成七個可能性。接下來在不預設立場的前提下，來檢討這七條歧路當中，那一條路擁有維持和平的最高機率。

第一條路是台灣獨立，現在所有的爭論幾乎都是針對這一條路而來。因為這一條路不但犯了中國的大忌，同時也踩到美國的尾巴，所以看起來似乎引起戰爭的可能性最大。

第二條路是宣布統一，統一也不會帶來和平。因為這一條路就算沒有引起台灣的內戰，也一定會引起台灣社會長期的動蕩不安。而且在中國要來接收台灣的時候，也必將造成台灣保衛戰。

第三條路到第七條路是由暫時維持現狀再細分出來的。中國隨著經濟的高度成長，共產黨獨裁的政治制度當然也有可能跟著改變。共產黨也許會從事內部改革而繼續維持政權，但是也有可能會有像蘇聯一樣出現被解體的一天。

共產黨如果能夠長期保有政權，在以上的歧路當中，只有共產黨允許台灣民主自決這一條路可以絕對避免戰爭。共產黨如果面臨顛覆的危機，台海戰爭發生的可能性也不小。最可怕的是如果共產黨臨危孤注一擲，想要利用統一台灣的民族主義來解決中國國內的危機，那麼就有可能發生非理性的台海戰爭。唯一能寄望的只有共產黨解體以後，新政府承認台灣獨立的這一個可能性能夠避免戰爭。

從以上的分析上來看，很多人所希望的維持現狀就算是能夠暫時實現，那也只是把問題留到將來而已。不但不能真正免於戰爭的恐懼，而且必須隨著中國客觀條件的變化而隨時準備接受挑戰。

2001 年以前台灣持白子

2001 年世界奧林匹克委員會決定了中國獲得 2008 年的主辦權，這個決定同時也結束了台灣的黑子戰爭。

下圍棋的時候，第一手一定是黑子。也就是說只有黑子才能先制攻擊，取得第一陣攻擊的主導權。2001 年以前如果台海戰爭發生，台灣一定是持白子。因為當時台灣沒有先制攻擊的條件，絕對不可能以任何行動挑撥中國而引起台海戰爭。

台海戰爭如果發生，當事國不會只有台灣和中國，美國也一定會加入。所以必須從台灣、中國、美國三方面的立場來觀察。

台灣的黑子戰爭時代，如果台灣貿然宣佈獨立的話，中國恐怕會毫不猶豫的攻擊台灣。當時的中國不但軍事力量不足以制壓台灣，經濟也不起色。而且戰爭一起，如果美國要出來干涉的話，中國也沒有可以和美國對抗的本錢。那時候的中國除了大中華民族主義以外，手上沒有什麼可以制敵的大牌。但也正是因為中國手上沒有大牌，所以反而可以孤注一擲來和台灣或者美國對抗。反正輸了也就輸了，不會有甚麼大損失。

美國的立場又是如何呢？如果是中國先制攻擊，美國本著台灣關係法師出有名，可以像中國往台灣打飛彈時一樣，馬上派遣軍隊支援台灣。可是如果是台灣先出招的話，那麼後果就很難預料。雖然最後基於台灣「不沈航空母艦」的戰略地位，美國應該不會坐視台灣被中國佔領，但是戰爭還是無可避免的。

所以在當時，無論台海戰爭的結果台灣會是勝是負，只要台灣下了黑子，就有台海戰爭爆發的可能性。台灣只能拿白子，所以說那時候是台灣的黑子戰爭。

2001 年以後中國持白子

2001 年世界奧林匹克委員會決定了中國獲得 2008 年的主辦權，中國人喜從天降，可是從這一天開始，白子轉到了中國的手上。至少到 2008 年為止，台海戰爭變成了中國的黑子戰爭。

2008 年的北京奧林匹克運動會再加上 2010 年的上海世界萬國博覽會，馬上就會令人聯想到日本的高度經濟成長期。日本在 1964 年舉辦東京奧林匹克，1970 年舉辦大阪世界萬國博覽會，關東關西兩大城市各舉辦一次世界大會，不但使這兩個大城市立即躋身於世界大城的行列，所帶動的經濟效果，也使得這兩張王牌成為日本高度經濟成長期的象徵。

兩張王牌在短短的時間之內，就到了中國的手上。有了這兩張王牌，中國只要時機一到就能晉身為世界大國。可是也因為有了這兩張王牌，中國就必須衡量值不值得為了台海戰爭而捨棄這兩張王牌。如果不值得，那麼台海戰爭就變成了中國的黑子戰爭。

中國既然持白子，就等於是失去了先制攻擊的機會。也就是說只要台灣不發動軍事攻擊，台海戰爭就不會發生。中國如果先行發動武力攻擊，那麼失去的不會是只有主辦奧林匹克運動會和世界萬國博覽會而獲得的世界地位，中國還會失去許許多多全球化所帶來的外國投資。這些損失再加上戰爭和戰後的復興費用，有可能會使得中國因而破產。

維持現狀的危險性

要長久維持現狀實際上是不可能的事，2006 年美國五角大廈向國會提出的「中國軍事力」年度報告提到中國發表的軍事費用只有實際上的三分之一，因為不包括核子武器、戰略武器、潛水艇、輸入武器以及軍事開發費用，實際軍費為世界第二。此外，外資的大量流入也讓中國的經濟環境起了很大的變化。所以維持現狀就算是能夠暫時實現，那也只是把問題留到將來而已。不但不能真正免於戰爭的恐懼，而且必須隨著中國客觀條件的變化而隨時準備接受挑戰。

中國向維持現狀挑戰的時機不會離現在太久，第一個時機很可能是辛亥革命一百週年紀念的2011年。這一年不但會掀起中國民族主義的高潮，而且這一年中國的國力將會處於有史以來的最高峰。同時奧運和萬博這兩個大會如果能夠成功落幕，中國在全世界的發言權必定大大的提高。

就在這個和全世界的關係最良好的時候，如果中國蓄意要打破維持現狀的狀態，恐怕不管那時候台灣的民意如何，都很難抗拒中國的強勢。這一個假設並非空穴來風，因為中國解放軍的少壯派在不久之前曾經提出兩岸統一的時間表，時間就訂在這一年。這些少壯派經過十年的成長，正在事業的巔峰；而胡錦濤主政將滿十年，也正是想要在歷史留名的時機。

如果這時候中國強硬的主張維持現狀已經到了極限，那麼台灣要如何自處？是要選擇沒有退路的獨立戰爭，還是選擇島內獨立派和統一派的內戰？

利用中國的白子戰爭 避戰

維持現狀既然隱藏著這麼大的危險性，台灣只有利用中國的白子戰爭，才能夠將台海戰爭的危險性減到最低。中國持白子的時間並不長，只有到2008年為止。在這一段期間裏面，無論台灣向前走多少步，中國都只能做最小的反應。所以台灣必須在2008年中國奧運以前，為自己爭取到最大的權益。

台灣能夠用來獲得國際社會共鳴的最大武器就是民主。如果不是台灣這幾年的民主成果，在中國的打壓之下，台灣不會在美國、日本以及全世界的民主國家獲得現在的友誼。以日本為例，日本的第二大報，也是立場親中的「朝日新聞」在日本和中國建交三十年的專題報導裏面，卻有這麼一段話：

『中國和台灣的关系原本具有國共內戰延長的歷史側面，可是台灣的政黨交替卻改變了這個關係。這個改變很有可能動搖日中共同聲明裏面的一個中國原則

』。

也就是說，朝日新聞認為現在台灣和中國之所以會分斷，只是因為國民黨和共產黨的內戰尚未解決，因此日本必須堅持一個中國的原則。可是台灣的政權既然交替，國民黨不再執政，那麼「國共內戰的延長」這一個事實已經不存在，一個中國原則當然也就必須重新檢討。這就是政黨交替帶給國際社會的震撼。政黨交替雖然使得台灣的內政天天吵鬧不休，但是台灣的國際地位卻由於政黨交替而獲得民主國家完全的認同。

台灣要避戰，就必須善加利用到2008年為止的中國白子戰爭期間。而為了要讓國際社會認同台灣的努力，就必須繼續發揮民主精神。如此思考下去，結論是唯有公投和制憲才是保護台灣的盔甲與刀劍，也才能夠獲得尋求的和平的最大機率。

陳維斌

(本文原發表於TaiwanNews周刊)

危 機 一 髮

高村豪

其の一

在我的故鄉附近有一條小溪、是下淡水溪的支流、50年前河川沒有像現在污染的那麼厲害、溪水相當乾淨、溪底有撈不完的蜆（しじみ）、也有像淺蜆的貝類、相當好吃、每年夏天、同年代的朋友同學都會相邀去河裏、一邊撈蜆、一邊玩水、真的是一舉兩得。河川有深的地方也有淺的地方、雖然不是每年、但是總會有小孩子犧牲。記得那是小學四年級的暑假發生的事、我跟4,5位同班同學去小溪遊泳、當時在我們遊泳的地方附近的河面上、放置着一大片黃麻（製作繩子跟布袋的原料）。當時我剛學會潛水、潛水的時候還不敢張開眼睛、結果失去了方向感、有一次攢到黃麻的底下了、當我要浮上河面時、頭碰到黃麻才曉得不妙、兩手想去抓開黃麻、但是小孩子那有那麼大的力量。在快要喘不過氣的時候、緊張之下張開眼睛看到不遠的地方有一點光芒、趕快朝著亮光的地方遊過去、終於脫出險境。自那次以後、再也不敢到那條河裏去遊泳了。

其の二

記得那是大學二年級的時候發生的事、當時看組織切片須要顯微鏡、學校規定每位學生都必須自備顯微鏡。當時台中市的光學儀器行的顯微鏡都被買光了、沒有辦法、只好邀同班同學一起去台南買、還好還剩下二台。

為了趕搭回台中的火車、只好拜託儀器行的店員用オートバイ載我們去車站、一人坐一台、我是坐在後面那一台。當快抵達車站前的道路時、前面那一台已經衝過馬路、我們這一台也要跟着衝過去、正好右邊有一輛滿載竹子的大卡車開來、看到我們在道路中央、趕快緊急煞車。當時我右手拿著顯微鏡、看到大卡車趕快將顯微鏡轉到左手去、雖然車子沒有碰到顯微鏡、却碰到我的右小腿、雖然祇是輕々的一碰、我的右小腿還是腫了兩星期才消。

當時、我跟那位店員都嚇得臉色發青。如果那輛卡車再慢一秒停下來的话、我們兩人可能都會輪下喪生、真的是命大。

其の三

上両則体験是在台湾發生的、現在要談的是在日本發生的体験、記得那是昭和 62 年夏天的事、那時候還住在長野、當時有參加当地齒科醫師会的テニスクラブ、大概每個月都有一次練習。那一次內人也一起參加、因為有事、所以中午吃完飯後、我們夫婦就先離開、當車子開到離我們家還有 15 分鐘路程的地方、在信号待ち的時候、我還很清醒、但是當信号由紅變綠、車子再開動不久、我就打瞌睡了、（內人坐在我旁邊、早就睡得不知道到第幾殿了）。

不知道過了多久？我們兩人都被ラッパ声吵醒、眼睛一張開、兩人都嚇了一大跳、怎麼車子開到右邊去了、我們的左邊停了整排的車子。當時我們的車子是國產車、不是オートマチック的車子、不但エンジン沒有熄火、而且車身一點損傷都沒有、真的是運氣太好了。當時那條路的兩邊都有緣石、我的車子停的地方剛好是古墳前面的廣場、（路邊剛好有一座古墳）、祇有那個地方沒有緣石。從信号待ち的地方到車子停下来的地方大約有一百多公尺。自那次以後、我開車的時候、內人再也不敢打瞌睡了。

日本は何故「一党非独裁」政治

田川博章

私は今 54 歳。27 歳のときに台湾から日本に移住し、今年で人生のちょうど半分は日本で暮らしたことになる。私のようなものから見れば、日本という国は先進国家である反面、独自の伝統はいまだによく保存され、社会はもちろん、日本人の心の中でも至る所に見受けられる。政党政治もその一つ。

昭和 30 年保守合同が結成されて以来現在に至るまでの 52 年間、自民党が野党になった期間は僅か一年足らず、内閣総理大臣が自民党員でない期間もたったの二年半。しかもこの二年半は、村山政権の旧社会党との連立期間を除き、政権の中枢にいるのは自民党出身者ばかりで、政治理念が多少違ってても、結局自民党や準自民党というべき保守本流が日本の政治の舵を取ってきたのだ。

例外もあったが、結果的には自民党の党首は当然日本の内閣総理大臣であり、自民党は与党であるという状況を大勢の日本国民が認知してきた。

こういう状況では国際的には、日本は自民党一党独裁の国だと、思われても仕方がないだろう。欧米だったら、民主国家であれば、政権交代が当然のように行われているし、中国は政権交代しない共産党独裁政権で、台湾も戦後からつい 6 年前まで国民党の一党独裁政権であるというのは、国際政治では公然の話だ。

しかし、日本ではいくら自民党一党政権でやってきても『日本は独裁国家だ』と、誰からも言われない。その原因は日本の政治文化に求めなければならない。

「自民党をぶっ壊す」と宣言した小泉前総理実に迫力満点でしたが、自民党の何をぶっ壊そうとしたのでしょうか？自民党は当然与党なので、小泉総理が壊そうとしたものの正体は実は

自民党ではなく、日本の政治文化そのものかもしれない。

例えば日本で古くから伝えられてきた政治文化には二つの特徴「集団による政策決定」と「権威と権力の分離構造」があり、こういう古い政治文化はいまだに現代政治に生きている。「集団による政策決定」の具体的な形のひとつは派閥政治で、一方「権威と権力の分離構造」の代表的な形は官僚政治である。

だから、小泉改革が取ってきた行動は派閥政治を壊すことで政策決定を集団決定からもっと欧米的な首脳決定にしていき、官僚政治を壊すことにより、政治形態を準社会主義からもっと欧米的な資本主義にしていこうとするものだった。

しかし、こういう欧米的な文化は果たして日本の風土に合うかという、そうでもないという思いが強い。国際化も大事だが、日本のすばらしいのは、やはり伝統が忠実に守られてきたこと「島国根性」と言われればそこまでですが、伝統が守られなかったら、地方色の強いお祭りや着付けがとても大変な着物、生け花、お相撲など日本独特の文化はとうの昔に国際化と一緒に吹っ飛んでいた。勿論日本の政治にも同じように伝統がある。欧米の政治が「正義（Justice）論」に基づくものに対して、日本は「和」を大事にするのだ。こういう基本姿勢が違うからこそ、前述の二つの政治文化の特徴が生まれてきた。

「二大政党」は欧米の民主国家にとっては当然なことであり、成熟した民主政治の表徴でもある。だから日本も古い体質から脱却しようと、選挙を二大政党になりやすい小選挙区制度に改革してきた。その結果、二大政党が議席の大半を占めることにはなったが、交互に政権を担当するまではまだ至っていない。「二大政党」は日本の未来にとって決して悪いことではなく、国際潮流についていくには必要なことだと思う。その代わり、日本の政治から「和」の一角を崩して「競争」という名の「正義」を取り入れなければならない。遠い目で見れば、いずれ日本の特色が薄れて、日本人の心も変わっていくかもしれない。そうしたら日本も自然に欧米並みの二大政党の道を歩んでいける。

しかし、国内の自然な変化を待てず、外圧はもっと早くやってくる。現にその「和」を崩そうとする変数はひとつある、それは「中国」だ。中国が「和」を大事にする日本人の心を上手く利用して、靖国参拝をやめなければ中国とは仲良くやっていけないよ、という印象を人々の心の中に植え付けた。つい先日の温家宝訪日の時は、「和」をもって、省エネ・環境技術をよこせとか、「和」をもって、東シナ海のガス田共同開発しようとか、いろいろ「微笑攻勢」をかけてきた。しかし、この「融氷の旅」さえも安倍首相の靖国参拝の牽制を忘れることはなかった。いずれもし、靖国参拝問題に対して両大政党の主張が真っ向から対立し、強力な政策論争になれば、この問題は二大政党を加速させる要素にもなりかねない。

だけど、近いうちに日本文化が急激に変わるとは私は思わない、人々は依然として「和」を持ったまま政治を考えていくに違いない。景気のいいときには、波風を立てずに自民党のままで良いのではないかと思うし、景気が悪くなったら、こういうときこそ経験豊かな自民党が必要だと人々は思う。よほどのスキャンダルや「和」を破壊するようなことがなければ、近い将来「二大政党により政権交代」が起こるとは思えない。「小泉改革」がもたらした政治改革は振り子の一番右の位置に持っていた、安倍首相がそのままではいられず、必ず振子を反対方向に修正しなければならない。だから首相就任後内政でも外交でもいろんな批判をされたが、これはむしろ自然な日本の「一党非独裁政治」の姿ではないでしょうか？

柯旗化先生を偲ぶ

丘哲治

「台湾監獄島」 — 柯旗化先生の回顧録について

30か40年前に、台湾で英語を勉強した学生諸君は「新英文法」という教科書を知らない人はおそらくいないであろう。いわば、台湾で中学以上の教育を受けたことのある人間は、この本と本の著者である柯旗化先生を知らない人がいないと言っても過言ではありません。特に私のような英語力のない人間がああ分厚い「新英文法」を見たら、頭痛の種となり、今でも自分があの本の被害者と自認します。青と白二色で構成された表紙の教科書は、今でも鮮明に私の目に焼き付けています。どうしてこんな難しい本を世の中に出して学生を悩ませたかと当時は思いました。その分、余計柯旗化先生の名を覚えてしまいました。これは私が学生時代で柯旗化先生に対する唯一の印象でした。

社会人になって数十年、頭の中に「新英文法」と柯旗化先生の名前はすっかり脳みその何処かに消えました。十数年前偶然の機会に柯旗化先生が台湾の民主化のため、50～70年代で前後2回合計20数年の獄中生活を送った事を知り、正直に言うと私は大きなショックを受けました。個人の無知と思いますが、この事実を早く知れば、わたしはもっと英語を勉強するかもしれない。

冗談はさて置いて私と同様に、恐らく柯旗化先生は当時の国民党にとって頭痛の種であろう。私は国民党のように絶大な権限は持っていないため、ずっと悩みを抱えたまま、学生時代を平凡に過ごした。しかし国民党が違う。あの一党独裁の中国政権は自分にとって都合が悪いものは容赦なく、消してしまうか投獄するかを台湾の人民に施して来ました。罪のない人で

も何らかの罪名や因縁をつけて、悲惨の目に遭わせる。こうした環境の中、柯旗化先生は犠牲者の中の一人でした。

このように、戦後中国からやって来た国民党が台湾で行なった政治迫害は至るところで見られます。二二八台湾人虐殺事件以後、殆どの台湾人が口を噤んで、身の上の安全のため何もかも言えなくなった。恐らく、今の台湾人があの事件の“教訓“を肝に銘じて、自分の台湾意識を隠そうとしたでしょう。台湾は李登輝前総統が就任した後に民主化がどんどん進んでいて、やっと二二八事件の真相が世の中に知り渡っていました。

今の国民党は二二八事件が起こさないかもしれませんが。しかし、忘れてはならないのが共産党の残酷さは、遥かに国民党の上にあることです。中国で国民党から政権を取って代わり60年が経ち、経済がやっと上向いた最近でも政治、宗教などあらゆる面で自国民を弾圧しています。この事実を台湾人は、はっきり認識すべきではないでしょうか。

柯旗化先生が40数年前で受けた屈辱は彼自身が一番の被害者であり、同時にすべての台湾人は被害者でもあるでしょう。温厚な台湾人は中国人の本質を忘れて、一部の人が中国どの統一の幻想を捨てきれません。もしその日の訪れることがあれば、二度目の二二八事件が台湾人に降り注ぐ可能性が十分にあるでしょう。目の前の利益に走る一部の台湾人ビジネスマンの姿を見ると呆れるべきか悲しむべきか、とつても複雑な気持ちがしてなりません。

本会の先生方が「新英文法」の世話で医学部、歯学部に入られた人はきっとおられると思います。私のような「新英文法」を不勉強の人或いはよく勉強した人、皆が青春の思い出として、柯旗化先生のもう一つの著書である「台湾監獄島」を手に入れ、もう一度柯旗化先生の著書を読まれても宜しいのではないかと思います。柯旗化先生のような先人たちの努力があったからこそ、今の台湾の人が自由に暮らせることが出来ると私が確信します。柯旗化先生を偲ぶとともに、改めて台湾の先賢たちに感謝します。そしてすべての台湾人が、二度とこのような不幸のことに逢わないように早く目を覚めて、そして台湾人自分の道を歩むのは、わたしいま最大の夢です。

文責丘哲治

後書き：「台湾監獄島」（日本語）の本無料で請求できます。ご興味のある先生は丘哲治までご一報下さい。

T E L : 048-881-7333

F A X : 048-881-7222

メール : tehaino@nifty.com

祖国の彷徨

王紹英

一詩人から見た台湾の主体性

暖冬のため、例年よりも早く満開した桜が青空を飾っていた。

詩人李敏勇さんのお話を拝聴したのは、文京区区民センターで行われた鄭南榕顕彰会の席でした。4月1日のことでした。二十年前、鄭さんの壮絶な自決の炎がその後の台湾民主化運動を一気に燃え上げたことは周知のことです。こんな劇的な行動はなかなか真似できるものではありません。彼は台湾の大地を愛し、台湾の将来に夢を持っていました。彼の出自と行動について台湾人は深く考えなければなりません。鄭さんは中国人の二世です。

詩人は白髪がいくぶん増えたものの八年前とほとんど変わりなく、元気で颯爽としていました。席で詩人は台湾語の詩を交えて、台湾政治転換の苦痛と将来への希望を感性的に語りました。一生懸命美しい詩を理解しようと試みましたが、詩情の乏しい私にとって詩はエーリアンの言葉に等しいでした。詩はわからなくても、台湾人が自前の詩と詩人を持つことはすばらしいことだと私は十分悟ることができました。同郷人としても誇りでした。

詩人は台湾と日本が外来文化の吸収の違いを主体性の有無にあると断言しました。まったくそのとおりと思われまふ。日本は主体性をしっかり持っていていろんな外来文化を吸収・輸入・消化し、自信を持って大和式に転化してきました。一方、台湾は主体性を自分の大地に深く根を植えられずに、もっぱら外来文化を身につけてきました。ゆえに台湾文化の多層性と断層性が特徴と言われました。今日に至って、如何に台湾文化を定義するのか、どのような形で台湾文化を表現すべきなのか、どうしたら支那の地方文化と誤解されないのか、我々は苦悩の限り

です。

日本は有形・無形を問わず、解説抜きに日本独特の文化をいとも簡単に提示できます。世界から賞賛せられ、日本人に自信を持たせた日本文化に独特な美が満ちていました。

台湾はそうは行かないです。台湾人はよく自虐的に自分文化的な短所を並べるが、台湾にも独特な美学が存在しています。しかし、台湾文化を形で提示することは我々にとって大変苦痛なことです。いつも忸怩し、躊躇せざるを得ないのが実情です。

台湾文化の多層性・断層性はそのまま台湾の政治に反映されていると詩人が指摘しました。詩人は、李登輝前総統と陳水扁総統、二人の政治人物を上げて解説しました。李登輝先生は日本教育のエリート、一方の陳水扁総統は中華教育の秀才です。李登輝先生は日本教育を通じて西欧の知識、すなわち現代文明とヘレニック文化の洗礼を受けました。陳水扁総統は、中華教育を通じて古色蒼然の支那科学的な文化を身につけました。二人の教育背景に違いはその後の台湾政局を大きく影響したのは言うまでもありません。李登輝先生が苦心して敷いた本土化路線は、陳水扁総統に継承されず、八年間も迷走した。

詩人は、世代違いの台湾人エリートたちはそれぞれ大変優秀だが、いずれも台湾文化の主体性が乏しいと言わなければならないでした。文化主体性の乏しさがまさに台湾人の痛いところでした。

文化の主体性について考えさせられました。

歴史作家司馬遼太郎が、文明には合理性と普遍性がある、文化には不合理と非普遍的なものがあると、どこかに書いたと印象に残っています。日本の民主・自由・高速道路・下水道は合理的で普遍的な文明であり、お茶・きもの・日本社会のしきたりは非普遍的で非合理性の文化であると言えます。しかし、何が一番日本的であるかといえば、それはまぎれなく日本語です。言語こそが文化の主体性のもっとも大事な要素とされます。さらに追い求めれば、言語をあらゆる文字にあると思われたい。言語のみで文化を定義することはできないが、言語抜きでは文化を語れません。しかし、民族の経験・感性が時空を超えてじっくりと醗酵できるのが言語の符号、すなわち言葉を世代にわたり残す文字です。言語の符号は独自の文化形成の上でもっとも肝心の要素とされます。

台湾がなぜ文化の自主性を形成できないのかを追究するとき、台湾に言葉があっても自前の文字を持っていないことが大きな原因ではないかと考えなければなりません。言うまでもなく、言葉があっても、台湾は中国語をそのまま使うか、漢字で当てて台湾語を表現するしかありません。

殖民された民族が外来支配の言語を取って代わり、自らの俗語を国語にまで高めようとするときの困難は無知の大衆ではなく、変節したエリートでした。もっとも新しい国家である East Timor は、若干極端だがいい例です。建国元勲たちは自分が一番使いやすかったの支配者の言語ポルトガル語を国語に決めたのです。この記事を見たとき、私はこの国の将来を心配させるを得ません。

エリートは支配階級の言語の純粹さを是として、変形した・崩れた・土着した支配階級の言語を非とする傾向があります。したがって、俗語を国語にすること、あるいは自分が習得した支配階級の文字を捨て、新しい文字に転換することは、エリートにとって苦痛そのものです。舌を巻いて藍青中国語（台湾に逃れた中国人社会にできた中国語、馬英九の中国語）を喋る多くの台湾人エリートが、まったく舌を巻かない台湾国語（土着しくずれた中国語、陳水扁總統の中国語）をひなと思って見下すのも一脈共通な現象です。もっと困ったのは、支配階級の象形文字を文字としか思えず、象形文字以外の符号を文字として正視できないことでした。今も台湾語ローマ字表記の論争は延々と続いています。論争している学者は全員漢字文化の利益既得者、中華教育のエリートです。漢字意識棄てずのローマ字改革は、やはり難しいです。

エリートは外来支配階級の言葉を用いて外来支配者を倒した後、今度はその言葉を新しい支配階級の言語、すなわち国語、にすべきかの難問に直面します。国語は、その後の国の性格と運命を大きく左右することは想像するまでもありません。

詩人は美しい詩を数多く発表した。いずれも、漢字の詩です。詩人は俗語の台湾語で朗読する。彼の台湾魂は自分の詩が支那語で朗読されるのは耐え難いことと思われまふ。しかし、詩人が朗読しない限り、紙面に載っている人々の心を動かす旋律は中国語詩です。

詩人は、台湾の自主性の樹立と民族愛・民族魂を表現する手段としての漢字との間に何らかの矛盾を覚えたかのようなようでした。私はこの憂国詩人の煩惱と民族魂を持っているエリートの微かな虚しさを察した。詩人の苦悩は祖国の彷徨そのものです。（2007年4月5日）

文責 王紹英

2007年5月13日理事会の決議結果

出席者（敬称略）

林 正浩（当番幹事、司会）、毛利 忠、元山 逸功、中里 憲文、丘 哲治、中原 昂（記録）、田川 博章、重光 茂栄、蕭 惻惻、劉 文玲、中山 博雄、岡山 文章、長峰 俊次、王 紹英

決議内容

1 経費削減対策

講師謝礼を大学教授に準ずる。原則10万円とし、特例は理事会の事前同意が必要とする。行事の予算を設けない。

2 原則として、懇親会は講演会と別会計にして懇親会は参加者の実費負担とする。懇親会の出費に本会は補填しない。特例は理事会の事前同意が必要。懇親会のみ参加者は講演会会費を徴収する。

3 緊急もしくは即決を要する場合、会長と副会長で決める。決定後速やかに理事会に通知する。

4 大使館から依頼された行事の経費は全額大使館負担してもらう。行事内容は本会の意向を反映しなければならない。

5 許大使から直接の依頼は受けるべき。

6 親台湾の団体にいわゆる名前貸しについて、Give and take の原則に基づいて case by case で検討し、理事会の事前同意が必要。

7 予定行事の中間経過

平野久美子さん講演会は、6月17日 5時より受付、5時半より開始。

葉 菊蘭さんの講演会は、先方の連絡まち。

台湾主権記念会は、9月30日 朝日浜離宮ホールにて、講師未定、内容は検討中。来年の

主権記念会に責任者は早めに決めるべき。

さと医も便りは、6月に発行。年3回発行を目標にする。

- 8 会員からの寄付金は、会員の経費になれるよう「ホームページの広告費」として領収書を発行する。
- 9 理事会の連絡事項と意見交換はe mail を活用する。
- 10 親台湾の議員への工作案の作成は、元山先生が担当する。
- 11 台湾当局に日本のWHO工作方策を提出する。顔先生が担当する。
- 12 台湾を侮辱したg c社に制裁（抗議と不買運動）を可決。当会の謝罪要求を得るまで続ける。法廷に調停申し込みを視野に入れる。

会員日誌

2006年9月20日

- 安倍晋三先生に総理大臣及び自民党総裁就任に祝電

2006年10月15日

- 台湾駐日大使許世楷を囲む会を銀座がんこ鮎にて開催

2006年11月20日

- 第10号さと医もたより発行

2007年1月14日

- 伊藤潔先生をしのぶ会を台湾関連団体と共同開催

2007年1月28日

- 新年会土風炉銀座店にて開催

2007年2月20日

- 次期役員選挙を実施

理事当選者

頌彦真賢 王 紹英 丘 哲治 岡山文章 高 素妙 蕭 惻惻 田川博章
陳 俊雄 中里憲文 中原 昂 長峰俊次 中山博雄 林 昭棟 林 正浩
毛利 忠 李 中仁 劉 文玲 (50音順)

監事当選者

大山青峰 河元康夫 蘇原寛敏 (50音順)

2007年3月21日

- 理事会開催

台湾主権記念会の行方とそれに伴う本会の役割や次期役員選挙結果や選挙規約・選挙方法見直しについて討議しました

2007年3月25日

- 台湾のWHO早期加入できるよう産経新聞のアピール欄に投稿

2007年4月1日

- 台湾建国烈士鄭南榕先生を偲ぶ集いを日台交流教育会、日本李登輝友の会、台湾研究フォーラムが主催し、本会が共催しました

2007年4月10日

- 丘哲治会長がラジオ NIKKEI に出演、台湾と日本の医療交流や台湾のWHO早期加入について、インタビューを受けました。

2007年4月11日

- 丘哲治会長が千葉テレビの「台湾フォルモーサ」番組に出演、台湾のWHO早期加入について、アピールしました。

2007年4月15日

- 07年日本台湾医師連合総会
- 07年第一回理事会開催 理事の互選により王紹英先生を会長に選出
- 07年総会と中川昭一先生特別講演会開催

演題：東アジアにおける日本と台湾の状況及び将来日台関係の展望

編後語

清水 栄

本年の4月からわが台医連の会長が丘哲治氏から王紹英氏にバトンタッチをされました。会長職は大事な、名誉ある職位ではありながら、多大な情熱、エネルギー、智恵と努力を要する仕事であり、苦勞の多い職位でもあるかと思いますが、丘先生、2年間本当にお疲れ様でした。また、王先生、これからの2年間を宜しくお願い致します。

台湾はいわゆる「衛生実体」の名義でWHA(WHO年次総会)のオブザーバー資格申請から台湾の名義でWHO加盟申請に方向転換をしましたが、又もや門前払いをされました。台湾のWHO加盟へはまだまだ道のりが長いようですが、しかし、同じ門前払いをされるも、卑屈に腰を曲げながら側門を叩くよりも今回のように背骨をぴんとして正門を叩いたほうが格好いいのは確かであります。

中華思想という言葉は日本の学者が作ったものですが、中国人のこのような自己中心、傲慢

の考え方について、やはり子供の時から国民党政権により「偉大な中華民族、歴史悠久、文化深遠、地大物博！」のような「愛国スローガン」を頭に叩き込まれ、また、沢山の蒋介石とともに台湾に逃げてきた中国人と接触してきたわれわれ台湾出身者が一番理解が深いです。先日中国で大規模な反日暴動が起こった時に、多くの日本人が唾然としてなぜそんなにひどくまでやられたのか全く理解できないようで「戦後十分に反省をして、不戦の誓いをし、何度か正式的にも謝り、中国に対する経済協力も沢山してきた。欧米が過去のアジア侵略について全く謝りもしないのに、中国はほとんど文句を言わず、何故日本にだけそんなにしつこくひどく責めるのか？」と困惑しているようですが、われわれなら、その理由を簡単に理解できます。その底流にこの中華思想があるのです「かつて東夷と蔑んでいて、中華文化の恩恵を受け、朝貢もしていたあの小日本が強くなり、よりによって、大胆にも中国を侵略し、苦しめた！」欧米の侵略より遥かに自尊心が傷付けられ、恨みが深いのであります。日本は土下座でもして、沢山の賠償をし（蒋介石のお蔭で賠償は放棄されましたが、中国に対する ODA は感謝をされていないところをみますと、賠償の一部と見なされているのでしょう）、謝り続けなければ、その恨みは簡単に消えないのであります。その反対に、歴史でみますと（今でもそうですが）、自国から周辺民族への侵略は全然悪いとは思わなく、版図を広げたものは英雄であり、一旦版図に収めたものは、少し抵抗でもされたら、躊躇いなく流血の弾圧を加えるのであります。

台湾はこれからもこの世界で逞しく生きて行くために、民主主義の堅持と発展で自由民主主義側に居続けることは確かに大事であります。ただし、この世界では、どの国も自国の利益を最優先的に考え、また、力がものを言います。アメリカや日本が中国の台湾占拠を阻止しなければいけない最大の理由は台湾が民主主義国家であるか否かよりもなんと言っても台湾の戦略地政学的位置の重要さであります。台湾が取られて、エネルギーのシーレーンを握られては日本が困るし、中国は太平洋に自由に入出りでき、海洋大国になれば、周辺地域に対する影響は甚大で、アメリカのアジア太平洋地域における覇権も崩れてしまいます。従いまして、アメリカと日本(どんな形では分かりませんが)の介入は必至で、中国もアメリカに十分に対抗できる力を持つまで、動くことはないだろうと思います。台湾もこの世界において、地政学的位置や他国の民主主義仲間意識と情けだけを頼りするのではやはり心もとないものです。更に自分も力を蓄える必要があります。では、小国に何ができますか？もちろん防衛力の増強も必要ですが、1999年台湾中部で大地震が起こった時に世界のコンピュータ業界にも激震をもたらしたことを想起しますと、それがひとつのヒントかもしれません。当時台湾が世界の60%以上のコンピュータマザーボード、50%以上のモニター、45%のノート型コンピュータ及び10%の半導体製品を供給していたそうで、世界のコンピュータ部品、メモリなどの値段がたちまちに高騰しました。つまり、一部分的の産業（コンピュータ産業がまさに最適です）のまた一部分でもよいですが、官民一体力を合わせて努力し、世界で高いシェアを獲得し続け、台湾が有事になれば、世界が困る状況を作り出せば、世界各国も台湾の状況に関心を持たなければいけなくなるのであります。

編後語らしくない長い編後語になりました。このたびわが会の会長をはじめとした執行部が交替して、新しいメンバーとなり、本来当編集部も解散し、編集能力を欠け、たびたび編集ミスもする編者も交代するべきですが、そうならず、任期が2年間延長されることになりました。これからの2年間もどうぞ宜しくご指導、ご投稿、ご意見を賜りますようお願い申し上げます。

